

津島市地域福祉関係団体アンケート報告書

令和2年3月

津島市

1. 幼稚園・保育所・認定こども園

- (1) 登下校の安全確保について、どう変化しましたか。 _____ 1
- (2) 放課後の居場所確保について、どう変化しましたか。 _____ 2
- (3) 地域ぐるみの子育て支援について、どう変化しましたか。 _____ 3
- (4) 子ども・子育て支援の仕組みづくりについて、どう変化しましたか。 _____ 4
- (5) 障がい者への支援体制について、どう変化しましたか。 _____ 5
- (6) 外国人への理解促進と多文化共生の推進について、どう変化しましたか。 _____ 6
- (7) 災害や犯罪に強い安全安心な環境づくりについて、どう変化しましたか。 _____ 7
- (8) その他、地域福祉の現場での問題点や困りごと、悩み、お気づきの点、課題解決のために取り組むべき施策・事業アイデアなどがありましたら、自由にご記入ください。 _____ 8

2. 小・中学校

- (1) 福祉教育の充実について、どう変化しましたか。 _____ 9
- (2) 登下校の安全確保について、どう変化しましたか。 _____ 10
- (3) 放課後の居場所確保について、どう変化しましたか。 _____ 11
- (4) 地域ぐるみの子育て支援について、どう変化しましたか。 _____ 12
- (5) 学校教育施設の人材強化・学校施設の改善について、どう変化しましたか。 _____ 13
- (6) 障がい者・保護者への支援体制の強化について、どう変化しましたか。 _____ 14
- (7) 外国人への理解促進と多文化共生の推進について、どう変化しましたか。 _____ 15
- (8) 災害や犯罪に強い安全安心な環境づくりについて、どう変化しましたか。 _____ 16
- (9) その他、地域福祉の現場での問題点や困りごと、悩み、お気づきの点、課題解決のために取り組むべき施策・事業アイデアなどがありましたら、自由にご記入ください。 _____ 17

3. 高齢者支援事業者

- (1) 情報提供と収集について、どう変化しましたか。 _____ 18
- (2) 移動手段の確保、経費の支援について、どう変化しましたか。 _____ 19
- (3) 地域における交流、支援体制の整備について、どう変化しましたか。 _____ 20
- (4) 高齢者支援制度・サービスの改善と充実について、どう変化しましたか。 _____ 22
- (5) 高齢者支援施設の拡充について、どう変化しましたか。 _____ 23
- (6) 障がい者への支援体制の強化について、どう変化しましたか。 _____ 24
- (7) わかりやすい福祉情報の提供と相談・支援体制の充実について、どう変化しましたか。 _____ 25
- (8) その他、地域福祉の現場での問題点や困りごと、悩み、お気づきの点、課題解決のために取り組むべき施策・事業アイデアなどがありましたら、自由にご記入ください。 _____ 26

4. 民生・児童委員

- (1) 世代や居住歴をこえた顔の見える関係づくりについて、どう変化しましたか。 _____ 27
- (2) 高齢者の生活支援と生活の質の向上について、どう変化しましたか。 _____ 31
- (3) 地域ぐるみで子どもを見守り育てる体制づくりについて、どう変化しましたか。 _____ 35
- (4) 障がい者サポートと生活支援について、どう変化しましたか。 _____ 39
- (5) 防災の取り組みについて、どう変化しましたか。 _____ 41
- (6) 空き家、ゴミ対策について、どう変化しましたか。 _____ 44
- (7) 民生委員・児童委員の権限と活動について、どう変化しましたか。 _____ 47
- (8) その他、地域福祉の現場での問題点や困りごと、悩み、お気づきの点、課題解決のために取り組むべき施策・事業アイデアなどがありましたら、自由にご記入ください。 _____ 50

5. 障がい福祉事業者

- (1) 新たなサービスを行う上での問題点や課題について、どう変化しましたか。 _____ 53
- (2) 津島市において不足しているサービスについて、どう変化しましたか。 _____ 54
- (3) 地域移行、一般就労移行について、どう変化しましたか。 _____ 55
- (4) 他の団体との連携について、どう変化しましたか。 _____ 56
- (5) 障がい者を取り巻く地域社会のあり方について、どう変化しましたか。 _____ 57
- (6) 津島市の福祉施策に関する要望について、どう変化しましたか。 _____ 58
- (7) その他、地域福祉の現場での問題点や困りごと、悩み、お気づきの点、課題解決のために取り組むべき施策・事業アイデアなどがありましたら、自由にご記入ください。 _____ 59

※前回の計画策定時に実施した調査で挙げられた地域福祉の課題が、5年間でどのように変化したのかを、「①良くなった、②変わらない、③悪くなった、④わからない」の4段階で評価していただいたものです。
※いただいたご意見は原則として原文のまま掲載しています。
※評価が0件だった項目については掲載を省略しています。

1. 幼稚園・保育所・認定こども園

(1) 登下校の安全確保について、どう変化しましたか。

平成 27 年度アンケートでの意見（問題点・困りごと）の抜粋

- ・青塚駅周辺の整備
- ・園前の道路が狭く、園児、保護者が安全に通行できるようにしてほしい 等

	件数	その理由
①良くなった	3 件	<ul style="list-style-type: none"> ・園の前の道路が一方通行になり、安全対策がされた。 ・青塚駅から南道路が広がった。駅踏切付近は危ない。 ・北側道路に出る交差点に歩行者の有無を確認するミラーが取り付けられた。トラックの従来についての対策は出来ていない。
②変わらない	6 件	<ul style="list-style-type: none"> ・園前の道路の交通量が多く、門から飛び出したり、前の公園から小学生が飛び出すと危険。歩道がない。 ・登園に関しては住宅地の中にある為、道路等の整備等困難であると思われる。 ・園前の道路が狭いが、車やバイクが結構通るので登降園時間は門で見守りをしている。 ・道路標示、横断歩道、用水路フェンスの状況は変わらない。 ・駅周辺はまだ安全とは言えない。
③悪くなった	1 件	<ul style="list-style-type: none"> ・園前の道路は道幅が狭いがスピードを出す事が多い。また側溝の蓋が古くなって欠けていたり、凹凸がある為つまづきやすい。
④わからない	3 件	<ul style="list-style-type: none"> ・自分の園周辺以外の変化を把握していないので分からない。 ・自園の状況と異なる事例であり、具体的な把握が出来ない為。

1. 幼稚園・保育所・認定こども園

(2) 放課後の居場所確保について、どう変化しましたか。

平成 27 年度アンケートでの意見（問題点・困りごと）の抜粋

- ・公園等子どもたちが外で遊べる環境づくり
- ・地域の公園が少ないため、子どもが遊んだり走ったりすることができない 等

	件数	その理由
②変わらない	7 件	<ul style="list-style-type: none"> ・学童を利用したいが料金が高く預けられないという保護者の声が聞かれる。 ・環境に変化がない。 ・公園が近くにない。 ・公園が新設された等情報は聞いていない。
④わからない	7 件	<ul style="list-style-type: none"> ・学童の場所が小学校内に出来た所に関しては、安全面を考えると良くなったと思うが、実際の現状・問題点が分からないという思いもあるので、答えにくい。 ・自園の状況と異なる事例であり、具体的な把握が出来ない為。 ・公園等増えている様子もないが詳しくは分からない。 ・学童は領っていない。 ・小学生の兄・姉を持つ保護者からは夏休み、冬休み等の居場所について困るとの話を聞く事がある。

(3) 地域ぐるみの子育て支援について、どう変化しましたか。

平成 27 年度アンケートでの意見（問題点・困りごと）の抜粋

- ・母子家庭など子育てに不安を持っている母親への支援
- ・子育て中の母子が近所の人と気軽に交流できる場が少ない
- ・虐待や少年犯罪の事件は、身近で起こりうる事件であることに気づくべき 等

	件数	その理由
①良くなった	8 件	<ul style="list-style-type: none"> ・自園に該当する事例があり、関係各機関と連携を図りながら母子家庭の子育てを支援出来ていると思う為。 ・子育て世代包括支援センターが出来、横の繋がりが強化されたと思う。 ・家庭児童相談室や支援センターが機能していると思う。もう少し周知するアピールがあっても良いと思う。 ・自園でも積極的に子育て支援活動に取り組んでいる為。 ・家庭児童相談室、児童相談所、保健師との連携が増えた。 ・連携、情報の公開、共有という意味では前進していると思うが、支援の必要性はより高まっていると感じる。 ・子育て支援センターの充実。施策としてはまだまだ足りてないと思う。 ・園庭を開放し、近隣の方が出入りしやすい場にはなってきているので、多少なりとも情報の交換は出来ていると思う。
②変わらない	4 件	<ul style="list-style-type: none"> ・園と児童相談所との間で虐待に関して気になる事について、連絡を取り合う事は多くはなったが、地域ぐるみとなるとまだ課題は続いているように思う。 ・園にては個別に育児相談を行っているが、地域にて気軽に交流出来る場が増えたとは耳にしない。
③悪くなった	1 件	<ul style="list-style-type: none"> ・幼稚園に入団している子の一時預かり保育利用が増加。未就園利用の子が利用出来ない日が出てきている。

1. 幼稚園・保育所・認定こども園

(4) 子ども・子育て支援の仕組みづくりについて、どう変化しましたか。

平成 27 年度アンケートでの意見（問題点・困りごと）の抜粋

- ・ 特別支援児の早期発見・早期治療
- ・ 発達障がい疑われる子への発達診断の受診等と、保護者へ伝えることが難しい
- ・ 子どもの医療費負担を減らしてほしいという保護者の声が多い 等

	件数	その理由
①良くなった	9 件	<ul style="list-style-type: none"> ・ 医療費負担枠の増大。 ・ 保育料無償化。 ・ 職員の思い疑問を保健師や相談員の方々に聞いてもらう機会は多くなり、それが支援に繋がっていく事は良い事だと思うが、自園では発達の気になる子に関して、保護者へ伝える事の困難さはまだ課題となっている現状はある。病児保育は地域により利用しにくい意見はある。 ・ 特別支援児の早期発見については、巡回型教育支援が実施されるようになってきており、保・小・中教育委員会、その他関係機関との連携が実施出来ている為。 ・ 医療費無償化（中3まで）。 ・ 保育料無償化等、子育て世代への負担減となった。 ・ 巡回型教育相談等、園で気になる子に対し小・中学校との連携も入れつつ、丁寧に支援（サポート）が行われる様になってきた。 ・ 巡回指導等、特別支援教育相談員の先生の援助もあって助かっている。医療費の保護者負担の軽減が進んだ。 ・ 保健師と連携した保護者懇談が増えた。医療費負担が軽減された。 ・ 医療費負担については良くなった。無償化による給食費の対応が近隣市町村と差がついてしまった。3歳児健診以降の配慮を要する児への対応には依然として難しさを感じる。 ・ 色々やっていただいております、良くなっているとは思いますが全然、事足りてないと思う。
②変わらない	2 件	<ul style="list-style-type: none"> ・ 親の意識あまりない。 ・ この問題点については今後も変わらず、課題となってくると思う。年々、家庭環境も変わり、保護者の考え方等にも変化が見られる為。
③悪くなった	2 件	<ul style="list-style-type: none"> ・ 特別支援児の早期発見、治療などできたが母親の問題（ネグレクト）保護者へ保健センターに呼びかけたが、市外の幼稚園へ転園された。 ・ 障がい児保育受入れについて保育士不足が大きな課題である中、現場は人員不足の中での保育に大変困っている。 ・ 療育との併用が本来望ましい子が入所により保育園一本になってしまうケースがある。1クラスに配慮を必要とする子が1/3程の場合もありクラス運営が難しくなる一方である。
④わからない	1 件	<ul style="list-style-type: none"> ・ 医療費負担は少なくなったが、市民病院の出産の受け入れがなくなった事に困ったという声がある。

(5) 障がい者への支援体制について、どう変化しましたか。

平成 27 年度アンケートでの意見（問題点・困りごと）の抜粋

- ・高次脳機能障がいの子どもを早期発見・早期治療できるようなシステムづくり
- ・障がい児の保育受入に関して、職員配置が十分でない（乳児等加配対象の見直し）
- ・乳幼児健診で問題ないとされ保育園入園という流れになるが、問題が後からわかるケースが多い 等

	件数	その理由
①良くなった	5 件	<ul style="list-style-type: none"> ・津島市特別支援教育連絡会が年 2 回あり、小中高の先生方との連携の場が設けられているのは、直接話ができるので良い。また、直接園へ来ていただき気になる子を参観してもらいその後、相談出来る巡回型教育相談もうれしく思う。入園後に問題があり、その後、どこかの機関に繋がりたいが親の思いの違いから困難になるケースはまだ多い様に思う。 ・(4) と同様、少なからず対応が進み始めたと思う為。 ・個人的には色々な機関との連携が深められてきている為良くなってきていると感じている。 ・当園においては、津島市障がい児の教育及び保育実施要綱により支援児に加配をつけるようになった。保健師等との繋がりが良くなってきていると思う。 ・自園が認定こども園へ移行し職員配置が改善された。
②変わらない	8 件	<ul style="list-style-type: none"> ・障がい児の保育受入に関する職員配置に進展がない。 ・0 歳児からの入所が多くなり、1 歳半健診以前に現場では、対応の必要性を感じるケースが出てきている。未受診の状態でも加配も申請出来ない。 ・今も同じ。 ・加配内容が十分でない。障がい児だけでなくアレルギー児も対応して欲しい。 ・年児の違う、タイプの違う障がいについては、加配の見直しが必要だと思う。ノーマークの子でも集団に入ると、問題があるケースは多くその辺りの配慮が難しい。 ・障がい児保育の受け入れについて加配の見直しが必要。障がい特性や年齢等によって必要な人数の加配がないと保育に大きな支障が出てしまう現状。
③悪くなった	1 件	<ul style="list-style-type: none"> ・対象児または対象となる可能性があるとわかって、受入れされない所もあると聞く。

(6) 外国人への理解促進と多文化共生の推進について、どう変化しましたか。

平成 27 年度アンケートでの意見（問題点・困りごと）の抜粋

・外国人籍の人が増加しており、伝達を行うには個別対応が必要

	件数	その理由
①良くなった	1 件	<ul style="list-style-type: none"> ・自園にあった「中国語・タガログ語・ポルトガル語・スペイン語」の保育園、幼稚園で必要なコミュニケーション訳語集があり、教育委員会に資料提供させていただいたのでスモールステップとして進んでいると思う為。
②変わらない	6 件	<ul style="list-style-type: none"> ・伝達の難しさはまだあるように思う。宗教の違いから給食に配慮の必要な子がある。 ・外国籍の方への理解は進んでいると思うが、市役所に通訳出来る職員の配置がなく説明する時に困難さを感じる。 ・現在は日本語が困難な人がいない為変化なし。 ・言語の壁が大きい。口伝えが主である。多言語に変換出来るタブレットを使いこなす必要を感じる。 ・年々、外国人の子も増えており、特に食事や文化の違い、金銭面での対応が難しい部分がある。言葉も様々なので、その辺りでのフォローが欲しい。 ・日本語がほとんど理解出来ない保護者への対応。特に手紙の内容を伝えるのに困難。
③悪くなった	1 件	<ul style="list-style-type: none"> ・うまく伝わらない事が多く、書類など書き直しが多い。行事の伝達など理解がうすい。
④わからない	6 件	<ul style="list-style-type: none"> ・当園においては該当児があまりいない為。 ・外国人への伝達は伝わる方法を試行錯誤しながら行っている。

(7) 災害や犯罪に強い安全安心な環境づくりについて、どう変化しましたか。

平成 27 年度アンケートでの意見（問題点・困りごと）の抜粋

- ・大災害になった場合、具体的にどのように支え合うのかわからない
- ・災害が起こった際、多数の園児を連れて避難するのは難しい
- ・保育所が市の避難所であるが、地域と協力した訓練ができていない 等

	件数	その理由
①良くなった	4 件	<ul style="list-style-type: none"> ・当園としては耐震工事を行い、市のハザードマップを確認して避難方法を考えている。もっと市民にハザードマップを活用してもらえると良いと思う。 ・ハザードマップ等、地域の状況の把握が出来た為。 ・地域との連携は訓練上は出来ている。実際に起こった場合の避難所（小学校）への移動は出来ないと思うので、自園か隣接の公民館を考えている。早い時点の休園について市で統一の判断をして欲しい。 ・市と協定を結んだ事業所が増えている。地域コミュニティや中学校と連携した避難訓練を行う事が出来た。その上で、やはり多数園児を連れての避難は難しい。
②変わらない	6 件	<ul style="list-style-type: none"> ・自園での避難訓練は定期的に行ってはいるものの、地域と協力して行うような訓練ができていないのが現状。 ・特に前回から変わった点が無いと思う為、又、具体的な取組にも至っていない為。 ・大災害が起きた場合、具体的にどう動けば良いのかが分からない。 ・地域と協力して訓練を行えていない為。 ・今も同じ。 ・何も解決してない様に思う。
③悪くなった	1 件	※記入なし
④わからない	3 件	<ul style="list-style-type: none"> ・課題の内容が現在も思う所がある。犯罪に関しては、市から F A X が届くが、場所が近いともう少し早く知らせたいと思う時もある。 ・とにかく安全を確保したいが、状況によっては分からない。

1. 幼稚園・保育所・認定こども園

(8) その他、地域福祉の現場での問題点や困りごと、悩み、お気づきの点、課題解決のために取り組むべき施策・事業アイデアなどがありましたら、自由にご記入ください。

件数	自由意見
5件	<ul style="list-style-type: none"> ・(4)にも記入したが、発達の子になる親への伝え方が困難。3歳児検診の後、保健師から指導があっても伝えてくる親はほぼいない現状。検診も大変だと思われるが、就学前としても一度検診があると、さらに発達が分かり良いのではないか(その時は事前に園からの情報も聞いておくと良いのでは…) ・児童相談所から名前があがっている子で気になる事(例えば怪我による虐待の疑い)があった場合、内容によって訪問しにくい点がある様なので、どうすべきかと思う時がある。 ・災害対応について、自助から共助へと連携が出来る様に、まずは行政主導での意見交換会、連携のキッカケ作り、他市町村の具体的な取組例の紹介等を行って欲しい(危機管理課や市民協同関連部署、消防署等との連携)。 ・保育士不足でどの園も困っている。働き方改革と叫ばれる中で、各園も質の向上に目を向け魅力がある保育園、魅力ある町づくりに真剣に取り組まねばと思っている。人材が集客出来る良いアイデア(人材派遣を市が行うとか?)何かあれば反対に教えてほしい。 ・福祉の現場は人と人が支えあう場だが、この地域でも年々と保育士不足、人不足である事をひしひしと感じている。この地域ならではのPRを公私でタッグを組んで、行っていかなければいけないのかもしれない…。 ・現場の声を吸い上げて検討出来る場を作っていくと良いと思う。他市町村に右へ倣えの施策では追い付かない。大胆な施策を期待している。子育て支援、障がい児対応、災害対策で日本一の市となれるような目標設定を掲げて推進していくような市になって欲しい。

2. 小・中学校

(1) 福祉教育の充実について、どう変化しましたか。

平成 27 年度アンケートでの意見（問題点・困りごと）の抜粋

・中学生が年間を通して、福祉施設と交流する学習がない

	件数	その理由
①良くなった	4 件	<ul style="list-style-type: none"> ・福祉実践教室を半日に渡り一人 2 講座受け、充実した計画としている。認知症サポーター等新たな取組も実施されて充実を感じる。 ・職場体験学習などの機会に、地域の福祉施設と交流する学習の機会を持つことが定着してきた。 ・福祉実践教室をはじめ、校区のパビリオンとの交流等、年々積み重ねていくうちに教育的効果が向上した。
②変わらない	10 件	<ul style="list-style-type: none"> ・交流の機会は設定されていると思うが年間を通して継続するのは難しい。 ・カリキュラム上、年間を通して福祉に関して学習する事はない。 ・増えていない、変化していない。 ・4 年生で福祉実践教室を行っている。 ・以前までと同様に、4 年生において国語のユニバーサルデザインの学習と関連付けて福祉実践教室を行っている。 ・中学校としては教育課程が詰め込み過ぎでこれ以上詰め込む時間がない。授業が確保出来ず、学校として困っている。 ・福祉施設との交流は職場体験等の行事に限られ、その行事も精選されているので新たに学習の場を設けるのは難しい。
③悪くなった	1 件	<ul style="list-style-type: none"> ・学校の行事の精選により、事業が縮小傾向になりつつある。現在は福祉実践教室だけにとどまっているのが現状である。
④わからない	7 件	<ul style="list-style-type: none"> ・現在は福祉実践教室が中心となる行事になっている。 ・小学校現場であるので分からない。 ・以前、津島市の中学校に勤務していた頃は、中一の時に市内の福祉施設（老人施設・授産所）にそれぞれ分かれて 2 日間の体験をしたり、職場体験学習として 2 年生時に保育園・幼稚園への体験を 3 日間行ったりしていた。学校によって違うのかもしれないし、現在の中学校の様子は分からないが、そのまま継続されていけば、年間を通してではないが、少なくとも全員が交流活動はした事にはなっているのではないかと。年間を通してというのは、現状は、他にもやらなければいけない事があるので、難しいと思う。

(2) 登下校の安全確保について、どう変化しましたか。

平成 27 年度アンケートでの意見（問題点・困りごと）の抜粋

- ・学校までの友だちと歩く体力不足、基本的なコミュニケーション能力不足から通学団での登校がうまくできない子どもが増えている。
- ・犯罪に巻き込まれないように安全な登下校ができるようにしたい 等

	件数	その理由
①良くなった	9 件	<ul style="list-style-type: none"> ・登下校でのトラブルは以前と同様あるが、防犯対策の面では良くなっているから。 ・交通安全会のみなさんが毎日交通指導していただき。通学団団長もそれぞれ一生懸命やってくれている子が多いので。 ・「見守り隊」を再結成した。 ・地域の見守りの目が多い。 ・登下校時に教員が通学路に立って指導したり、下校時間を日没前に帰宅できるように考慮している。 ・グリーンベルトが設置された。 ・登下校での苦情が少なくなった。 ・藤まつりの時はガードマンに立っていただき、観光客が下校途中の小学生に話しかける事はなくなった。普段も安全に登校出来ている。 ・H29～地域学校協働本部による子ども見守り隊がスタートした為、登下校の安全確保に繋がっている。
②変わらない	12 件	<ul style="list-style-type: none"> ・グリーンベルトは設置されたが、道幅そのものがせまい。 ・生徒指導部が中心となり、登校指導、下校指導を計画的に行っている。 ・本校は3年生以上は個々に下校する。校区の半分に 110 番の家が集中しており見守り体制の不足から不安は続いている。 ・きずなネットの周知はあるが、大きな変化はない。 ・以前と同様に、家庭や地域の協力のもと大きな問題もなく登下校出来ている。 ・地域の状況に変化はない。 ・特に地域の様子に変化はない為。 ・信号のない交差点等、危険箇所が改善されていない為。 ・通学団での登校を見ていると、決して上手とは言えないかもしれないが、指導（声かけ）の継続により、改善は見込めている。保護者の送り迎えが増え、日によっては少数での登下校となり、団としてのまとまりはなくなってきている。一人での登下校はとても危ないと感じるが、登校時間が遅く、一人で登校している児童はいる。犯罪に巻き込まれる事も心配であるが、集団で登下校をしている時の車の接触が怖いと感じる。通学路を高速で通っていく車があり、また、横断歩道で児童が待っていても止まろうとしない車がいる事は心配である。さらには、通学団の集合場所の確保が難しい。朝から子どもが集まる事によって、不快に思う方からのご指摘は絶えない。
④わからない	1 件	<ul style="list-style-type: none"> ・小学校の内容？

(3) 放課後の居場所確保について、どう変化しましたか。

平成 27 年度アンケートでの意見（問題点・困りごと）の抜粋

- ・「学童保育」や「放課後子ども教室」が保護者から利用しづらいとの声がある
- ・学童保育等に入所できない子どもが多い
- ・安全安心な遊び場が確保できない 等

	件数	その理由
①良くなった	9 件	<ul style="list-style-type: none"> ・利用者が増加しているから。 ・学童の施設が校地内に移設した。 ・様々に工夫をこらした取組をして下さっており、学校にも開かれた活動である。通信等もいただくので教員にも回覧している。 ・夏休みの預かりが高台寺小に出来た。 ・夏休み居場所作りが設置された。内容は要検討。 ・学童の施設が小学校敷地内に出来たので、学童へ行く事も便利になった。 ・学童保育の施設が 2 年程前に学校の敷地内に出来たので、学童保育に通う事も遊び場についても安全面上よくなった。 ・春と夏の居場所作りも始まり、幅が増えたように感じる。 ・放課後子ども教室の認知度が上がり入室希望者が増えている。ただし、入室者は抽選との事で、中々入れず残念であるという声が多い(学童の費用との差がある為、2つが同じくらいの費用なら良いと思う)。
②変わらない	6 件	<ul style="list-style-type: none"> ・遊び場所が少ない。 ・「放課後子ども教室」、「学童保育」の利用希望者も増えてきている。受け入れる場所の問題も課題だと思います。 ・地域の変化は感じない。 ・部活動の時間は減りつつある。 ・中学生については放課後部活動がある為。
④わからない	7 件	<ul style="list-style-type: none"> ・小学校の内容？ ・中学校では、小学校での実情がわからない。 ・中学校は部活動があるため、該当しない。 ・放課後の居場所の必要がない（中学生なので）。 ・家庭での状況はそれぞれなので分からない。遊び場がない事は、つくづく可哀そうだと感じる。公園もあるが、ボール遊びは公園の広さを考えると危ない所が多い。本校では学校へ遊びに来る児童がいる。学校を遊び場とする事に関しては、防犯上の事もあり、良いかどうかは疑問である。一切、下校後は学校で遊ばせない所もあるとは聞く。

(4) 地域ぐるみの子育て支援について、どう変化しましたか。

平成 27 年度アンケートでの意見（問題点・困りごと）の抜粋

- ・幼・保・小・中へ通う子どものいる家庭に対して、状況に応じた保護者支援が必要
- ・共働き家庭では、下校後子どもたちだけでいることが多い
- ・中学校の部活動と個人で参加するクラブチームの連携 等

	件数	その理由
①良くなった	1 件	<ul style="list-style-type: none"> ・地域学校協働本部の活動が活性化され、保護者や卒業生の保護者が中学校へ足を運んでくれている。
②変わらない	13 件	<ul style="list-style-type: none"> ・地域の支援は向上しているが、地域に閉鎖的な家庭も増えているからどちらともいえない。 ・注視が必要な家族が多い。父子家庭で深夜まで帰らない、貧困のため食事のままならないなど。 ・変化は感じられない。 ・社会体育をさらに活発化して欲しい。 ・あまり変化を感じられない。 ・中学校の部活動が支える時代は終わったと思う。 ・少しずつ個人でクラブチームに参加する者も増えているが、まだまだ「学校の部活動がある」という意識が保護者や地域にある。 ・元々支援の行き届いた地域である。
④わからない	8 件	<ul style="list-style-type: none"> ・連携がとれているかどうかわからない。 ・なかなか現状は把握できない。 ・色々な家庭があるので、実際の所は分からない。家庭状況を聞くと、心配な児童は常にいる。それに対して、コミュニティが地域ぐるみで色々な取組をしているものの、「地域ぐるみで子育て」というと、子ども会がなくなっていったりと、地域の結びつきが弱くなってきているように感じる。 ・変化が見えづらい。

(5) 学校教育施設の人材強化・学校施設の改善について、どう変化しましたか。

平成 27 年度アンケートでの意見（問題点・困りごと）の抜粋

- ・特別な支援を要する児童生徒増加のため、市の補助員を配置しているが対応しきれない
- ・非行傾向の児童生徒を持つ親の相談場所や居場所となる受け皿がない
- ・学校施設のバリアフリー化が進んでいない 等

	件数	その理由
①良くなった	2 件	<ul style="list-style-type: none"> ・特別な支援を要する生徒のため、市の支援員が 1 名増になった。 ・エアコンが教室に設置された事で、暑い時期でも快適な環境で学習に取り組めるようになった。
②変わらない	15 件	<ul style="list-style-type: none"> ・支援を要する児童は増加しているので難しい面もあるが、よく見て下さり助かっているから。 ・通常級において、特別な支援を要する児童が増加しているためバリアフリー化は進んでいない。 ・もし車椅子の生徒が在籍するようなことがあれば、昇降機の設置を余儀なくされる。どこの学校にも設置しておく必要があるのでは？ ・市雇用のスクールカウンセラーを要望したい。県カウンセラーのみなので月 1 回以下である。ニーズは多い。 ・変化は感じられない。 ・階段が多い。 ・バリアフリー等、施設面にお金をかけてもらえないので変わりようがない。どうすれば良くなるのか逆に教えて欲しい。 ・人力的、経済的不足の問題。 ・特別な支援、個別に支援が必要となる児童は年々増加している様にも感じる。社会の変化に、学校の職員や大人達はついていけない。個別に対応してあげると良いと思っても、実際には人材（対応出来る人数）不足である。学校としては、人員の確保と施設の充実を切に願うところである。 ・特別な支援を要する児童生徒増加の為、市の補助員を配置しているが、特別支援級優先の為通常級まで人員確保は出来ていない。実際は通常級にも多く支援の必要な児童はいる為担任は苦勞している（特に 1・2 年生）。
③悪くなった	4 件	<ul style="list-style-type: none"> ・特別な支援を要する児童生徒増加のため、市の補助員を配置しているが対応しきれない。 ・支援が必要な児童は増加しているにもかかわらず補助員の配置は増加していない。 ・様々な点で市の対応とか（お金がないの一点張りが悪い、エアコンだけは早かった）。 ・雨漏りやひび割れ等、依然として老朽化が進んでいる。
④わからない	1 件	<ul style="list-style-type: none"> ・市の補助員を増やしてもらえるとありがたい。

(6) 障がい者・保護者への支援体制の強化について、どう変化しましたか。

平成 27 年度アンケートでの意見（問題点・困りごと）の抜粋

- ・障がい者への就労支援
- ・幼・保・小・中へ通う子どものいる家庭に対して、状況に応じた保護者支援が必要
- ・専門機関との相談・連携体制の充実 等

	件数	その理由
①良くなった	6 件	<ul style="list-style-type: none"> ・各施設、団体が連携を取りやすくなった。 ・市特別支援教育相談員の活躍のおかげで体制整備や個への対応が進み、他市町村に比べ磐石である。 ・専門機関との連携が充実し、入学時や毎年定時に教育相談を実施できている。 ・相談機会は増加している様に思う。 ・ソフト面は担当者がよくやっている。 ・学校現場から見ると、校外での支援体制は良くなっていると感じる。子どもの障がいについて、理解をし、各機関と相談をして、今後を考えている家庭も多くなってきている様に感じる。しかし、反面、偏見があり、なかなか専門機関への相談に行く事すら出来ない保護者もいる。
②変わらない	10 件	<ul style="list-style-type: none"> ・専門機関との相談連携体制が進んでいない。 ・変化は感じられない。 ・専門機関との相談はまだ少ない。声かけをしているが…。 ・あまり変化を感じない。 ・個に応じた、適切な支援体制が出来ている。
④わからない	6 件	<ul style="list-style-type: none"> ・教員も保護者も、相談窓口がもっと多く必要と感じる。

(7) 外国人への理解促進と多文化共生の推進について、どう変化しましたか。

平成 27 年度アンケートでの意見（問題点・困りごと）の抜粋

- ・言葉の問題により保護者の世話が充分行き届いていない外国籍の子どもがいる
- ・学習用具がそろわないことや必要な連絡が伝えられないことがある

	件数	その理由
① 良くなった	8 件	<ul style="list-style-type: none"> ・市の支援員（日本語指導）を配置してもらっている。 ・日本語支援員等の配置があり助かっている。市の補助金で教材の購入（ポルトガル語等）ができるのであればありがたい。 ・外国人児童が増加し、今後も加速する見込みであると思う。日本語ゼロの児童が現れたらどう対応するのかは、今は方法をもたない。 ・日本語教室やよろず学校生活相談所 FUJICA を利用する生徒がおり、地域に相談する場がある。 ・様々な配慮がされている。 ・語学相談員の方を通して保護者とコミュニケーションをとれる機会が少し多くなった。 ・体制は、ここ数年で整ってきていると感じる。ただ、日本ででの生活に馴染んでいけるかは、保護者の言語力によるのではないかと考える。言語の問題で、親子での会話が出来ないところは非常に学校としては、対応が難しい。
② 変わらない	12 件	<ul style="list-style-type: none"> ・依然として、文化の違いからお互いに困ることはたくさんある。ただ、語学相談の助けがあり、助かっている。 ・言葉が通じない場合、困ることはやはり多い。 ・日本語の指導が必要な外国人の数が増えているが支援員等の配慮がなされていない。 ・語学相談員の来校回数が増えるとありがたい。 ・児童が外国籍の保護者は、とても協力的で助かっている。定期的に保護者と語学相談員との面談も行っている。 ・通訳出来る人材確保を望む。
③ 悪くなった	1 件	<ul style="list-style-type: none"> ・学習用具がそろわないことや必要な連絡が伝えられないことがある。
④ わからない	1 件	※記入無し

(8) 災害や犯罪に強い安全安心な環境づくりについて、どう変化しましたか。

平成 27 年度アンケートでの意見（問題点・困りごと）の抜粋

- ・市内の公共施設でバリアフリーが進んでいない場合、避難所になった際困る人もいる
- ・子どもや高齢者にとって十分な広さの歩道や通行帯が少ない
- ・子どもの用水路転落事故防止 等

	件数	その理由
① 良くなった	5 件	<ul style="list-style-type: none"> ・自主避難所が冷房が使用できるのですごしやすくなったと聞いている。 ・歩道のグリーンベルト化はずいぶん進んだと思う。 ・昨年度、通学路の一部にグリーンベルトを設置してもらった。 ・道路脇にグリーンの区画をペイントしていただいているので、細い道で小学生の通学団に出会ってもそれぞれが安心して通行できている（南小校区）。→増やしていただければありがたい。
②変わらない	13 件	<ul style="list-style-type: none"> ・公共施設でバリアフリーが進んでいないため、避難所になった際、困る人がいる。 ・学校の保護者アンケートでも安全・安心になったという意見がない。 ・本校は体育館が避難所だが、トイレ等全くバリアフリーではない。 ・歩道等の施設が少ない。 ・通学団会議等で以前と同様に対応している。 ・校舎の裏がすぐに公道で柵がない等、侵入しやすい環境である。
④わからない	4 件	<ul style="list-style-type: none"> ・体育館に車イスで避難するにはかなり苦勞する現状である。校舎の老朽化がいたる箇所にもみられる。 ・市内の公共施設でバリアフリーが進んでいない場合、避難所になった際困る人もいる。今回の台風被害を見ても、積極的に進めていく必要があると思う。 ・整備には時間がかかり、優先順位があり、次々と老朽化していく為、整備しなければならない箇所はなくなる。どこまで改善したかはまだまだ疑問である。

(9) その他、地域福祉の現場での問題点や困りごと、悩み、お気づきの点、課題解決のために取り組むべき施策・事業アイデアなどがありましたら、自由にご記入ください。

件数	自由意見
8件	<ul style="list-style-type: none"> ・校舎のバリアフリー化や、体育館のヒビ割れて穴まであいているガラスの修繕や、備蓄食品（一部賞味期限が）など、避難所として機能するような対策はした方がよいと思う。 ・地域ぐるみで福祉について考えていく必要があるが、弱者を狙って犯罪を犯す人もいるので、なかなか交流を深めるのは難しいと感じる時がある。個人情報公開することで、犯罪者にとっては犯罪を犯しやすくなることも。お互いに助け合って、声をかけ合って生活していきたいが、弱者が犯罪の標的にならないか心配である。犯罪を生まない社会の実現をめざしたい。

3. 高齢者支援事業者

(1) 情報提供と収集について、どう変化しましたか。

平成 27 年度アンケートでの意見（問題点・困りごと）の抜粋

- ・緊急通知システム、消防署への登録等のサービスが携帯で利用できない
- ・高齢になってからの引っ越しは地域の交流がないため情報が得られない 等

	件数	その理由
①良くなった	2 件	・メール等で情報が入りやすくなった。
②変わらない	9 件	・独居の方や家族が無関心な場の情報が無いか本当の事か不明な事が多い。
③悪くなった	1 件	・携帯からは出来ない。固定電話貸し出しがなくなったので困っている。
④わからない	16 件	<ul style="list-style-type: none"> ・地域の専用のシステムがあり、もともと緊急通報システムに関して貸与事業の係わりが薄かった。 ・携帯で登録できないことが不自由だと感じないから。 ・今回初めて知ったので分からない。 ・モニタリングが十分に出来ない。 ・地域によるのかもしれないが、コミュニティ等から地域情報を発信している。戸別配布もしており、情報を得る手段がないとは言い切れない。 ・登録は書面で対応した方が良いと思う。地域の情報については市も積極的に紹介はしてくれているが要支援者は行けない人が多い。元気な人は行ける。 ・津島市に関する情報をどこで得られるか分かっていない。

(2) 移動手段の確保、経費の支援について、どう変化しましたか。

平成 27 年度アンケートでの意見（問題点・困りごと）の抜粋

- ・タクシー以外の交通手段がなく、買い物に困っている
- ・通院介助は介護保険外で自費になる部分が高額となり負担が大きい
- ・要支援者の買い物代行ができず困っている人がいる 等

	件数	その理由
①良くなった	2 件	<ul style="list-style-type: none"> ・買い物の手段に関しては、スーパーの宅配サービスが開始されている。高齢者も利用しやすい要支援者の買い物代行は介護予防、日常生活支援総合事業で対応可能となっている。通院介助は補助及び支援はない為、H27と不変である。 ・要支援者の買い物は（家事サポート）ただ少しでも認知があるとやってもらえない。
②変わらない	20 件	<ul style="list-style-type: none"> ・改善されたとは思わない。 ・需要が増加している。 ・改善された点がないと思う。 ・担い手が少ない。自費サービスとしてもない。 ・移動手段がない方の支援が欲しい（買い物・通院等）。 ・要支援は調理が出来ても買物が出来ない人が多い。通院・院内介助が手軽に利用出来ると高齢者は助かるが前と変化がない。 ・一緒に買い物に行く事が出来ない。 ・つしま家事サポーターの利用が出来る様になった点は良い。通院についてはタクシーを利用するしか手段がない方でも短い距離だと嫌がるタクシー会社や来てくれないという不満の声を聞く。 ・麻痺があっても努力して自立に向けて生活しておられるが、買物は支援者がいないと出来ない人が多い。スーパーなどの宅配のチラシを「見にくい」とやる気のない人も多い。
③悪くなった	1 件	<ul style="list-style-type: none"> ・タクシーの運転手の人も減っており、また自費サービスが出来る事業所も減っており、対応手段、人が減っているから。
④わからない	5 件	<ul style="list-style-type: none"> ・経費に対する情報がない為。 ・まだ実態は分からないが自己負担の部分が aumentando している事は感じる。

3. 高齢者支援事業者

(3) 地域における交流、支援体制の整備について、どう変化しましたか。

平成 27 年度アンケートでの意見（問題点・困りごと）の抜粋

- ・家にひきこもりがちでサロンが苦手な人が人との交流を求める場合の支援
- ・介護サービスを増やしたいと希望する人がいるが限度額等の理由で利用できない
- ・制度の狭間にいる人がサービスを利用できない 等

	件数	その理由
①良くなった	4 件	<ul style="list-style-type: none"> ・やり方で可能ではある場合がある。 ・サロンにおいては市民にも浸透していると感じるが十分な整備は必要と感じる。 ・「事業対象者」がサービスを受けられるが半年卒業後の事が困ってしまう。サロンへの送迎バスがあると良い。 ・サロン等の活動が活発になってきた。
②変わらない	16 件	<ul style="list-style-type: none"> ・行きたい人は行くし、行かない人は近所でも行かない。アクティブシニアの人が、何をしたいかと、地域の事業が噛み合っていない事が多い。 ・家に引きこもりの利用者の対応は難しく、交流まで進めるのに多職種の協力がある、介護サービスを増やしたい利用者、家族は増えている。自費の利用者が多くなっている状況。 ・引きこもりのケースがなく現状がよく分からない。以下 2 つの限度額の件、制度の狭門ケースの件に関しては何も変わっていないと思う。 ・買い物代行や付き添いなどの費用制限のため利用できないケースが多い。 ・制度が出来ても利用の仕方が分からない。 ・サービスを利用したくても限度額があるから。 ・地域における交流の場自体は、集いの場を含めて 100 ヶ所以上あり。そういう意味では H27 と比べ良くなっている。しかし、課題にある対象者に対する支援はない。 ・サロンには自力で行けない。迎えがあればこ所外に出る人が支援・事業対象者にも多い。要支援者の入浴介助と掃除を兼ねるとサービス時間や回数に制限が有り満足出来ない。 ・サロンの数は増えているが、参加者が増えているという様子はあまり感じられない。制度の狭間にいる人へのサービスは自費の対応が多いが料金が高いので、利用出来る人が限られている。 ・男性が行ってみたいと思えるサロンがない。基本チェックリストのみで利用出来るサービスが出来た事は良いが、利用出来るまでの手続きは手間がかかる。一度利用開始すると利便性から自立に向けて支援するのが難しい。 ・訪問は、居宅からサービスを依頼されて、本人の生活を見て気づく場合が多いが、限度額制限の中で打つ手なし。

	件数	その理由
③悪くなった	2件	<ul style="list-style-type: none">・介護制度を利用している方を早期に止めさせている。介護制度の利用を終えた後の行き先が適度なものがない。・本人に必要なサービスが受けられない人が多くなった気がする（介護区分が要支援になった為）。
④わからない	6件	<ul style="list-style-type: none">・まだ内容が分からない。

3. 高齢者支援事業者

(4) 高齢者支援制度・サービスの改善と充実について、どう変化しましたか。

平成 27 年度アンケートでの意見（問題点・困りごと）の抜粋

- ・障がいサービスを受けていた人が 65 歳になり、介護保険サービスの利用が優先になり、費用負担が増え、利用できるサービスが減る
- ・介護保険以外のインフォーマルサービスが充実していない 等

	件数	その理由
①良くなった	1 件	・社会資源がリスト化（整理）された事はよかった。
②変わらない	14 件	<ul style="list-style-type: none"> ・障がい者は、介護サービス優先になり、サービスが限られてしまう。 ・インフォーマルサービスが充実していない。 ・(3) と同じく、金銭管理を必要とする人で、認知症の度合いで自主支援制度（社協）が断られるケースあった。 ・大きな変化は感じていない。
③悪くなった	1 件	・障がいからの切り替わりで、障がいなら 1 回で購入で終了サービスが、介護保険だと利用が出来なかったり、車イス等の特注な物の作成も出来ないで強制的に切り替えになり、信用できないサービスが減っていると思う。
④わからない	10 件	<ul style="list-style-type: none"> ・該当するようなケースがなかったから。 ・情報が無いから。 ・前回は分からないので何とも言えないが、高齢者が働ける場や活躍出来る場があると良い。 ・今後もインフォーマルサービスだけでなくそこに誰もが行ける様な整備が必要。

(5) 高齢者支援施設の拡充について、どう変化しましたか。

平成 27 年度アンケートでの意見（問題点・困りごと）の抜粋

・職員の人材確保が難しい

	件数	その理由
②変わらない	8 件	<ul style="list-style-type: none"> ・入社してもすぐ退職等人材確保は難しい。 ・人材確保は変わらず難しい。横の繋がりがあると良いと思う。 ・退職しない様努力するのみ。
③悪くなった	11 件	<ul style="list-style-type: none"> ・特に訪問介護の事業所で、人員不足でサービスを受けてもらえないケースがある。全事業所、担当者会議の参加を依頼しても人員不足で欠席となる場合が多い。 ・退職される人が多い中、求職者少ない、入職してもすぐ辞めてしまうため人員の確保が難しく企業の人材紹介等もあまりあてにできない。 ・人件費が上がっていて余計に人材確保が難しい。紹介会社を使うと手数料も上がり 1 人紹介に 100 万は必要となる。 ・給料が上がらない。 ・人材不足で断わる事業所が有った（特に要支援者に対し）。 ・転勤等慣れた所の異動が多い。相談員が変わると考え方が変わり利用者を受け入れてもらえなかった事がある。 ・人材確保は一層難しくなっている。 ・最低賃金も上がり、他業種との人材確保の競合も激しく難しい状況が続いている。その割に介護報酬も減少しており苦しい状況。 ・我社は現在安定しているが（通所）、市内の介護職・看護職職員の入れ替わりが激しい？求人情報に介護施設は常に掲載されている。ケアマネジャー募集しても新規採用がないままで利用者の受け入れの相談を受ける事が出来ない。
④わからない	7 件	<ul style="list-style-type: none"> ・高齢者のニーズも多様化してきており、特色のある施設を拡充して欲しい。 ・現状の福祉界での給与では良き人材は確保出来ない。

3. 高齢者支援事業者

(6) 障がい者への支援体制の強化について、どう変化しましたか。

平成 27 年度アンケートでの意見（問題点・困りごと）の抜粋

・ 早期発見と適切な支援が必要である

	件数	その理由
①良くなった	1 件	・ 相談者は増加しており、相談支援体制が整ってきていると思われる。地域のサービス事業所も増えてきている。
②変わらない	12 件	・ もともとの障がい支援が出来るケアマネジャー等が各地域で少なすぎる。社会福祉協議会だけでは当然限度がある。 ・ 高齢者支援の一環で、家族に精神及び知的障がいの方が見える場合、複合的課題を抱えている事もあり、障がい相談窓口や福祉課へ繋ぐ事がある。支援体制の整備が行われているかは不明である。
④わからない	13 件	・ 該当するケースがなかったから。 ・ チームによる適切な支援が必要だと思う。

(7) わかりやすい福祉情報の提供と相談・支援体制の充実について、どう変化しましたか。

平成 27 年度アンケートでの意見（問題点・困りごと）の抜粋

・子育て中の親同士の交流がなく、相談機関が分からない

	件数	その理由
①良くなった	2 件	<ul style="list-style-type: none"> ・子育て支援の人がとても良いと思う。 ・他機関との連携は多くなっている。困りごとの相談をうまく繋ぐ事が出来ている。子育て中の親同士の交流についてはあまり把握出来ない。
②変わらない	4 件	<ul style="list-style-type: none"> ・広報や回覧板をもっと使って欲しい。
④わからない	20 件	<ul style="list-style-type: none"> ・上記事業での実績、係わりがない為。 ・該当するケースがなかったから。 ・まだこの地域で始めたばかりなので勉強不足。 ・世代が違うので状況が分からないが情報発信としてLINE等は利用しているのか。若い世代は新聞広報を読まない人が多い。

3. 高齢者支援事業者

(8) その他、地域福祉の現場での問題点や困りごと、悩み、お気づきの点、課題解決のために取り組むべき施策・事業アイデアなどがありましたら、自由にご記入ください。

件数	自由意見
7件	<ul style="list-style-type: none"> ・現状こういった事も含め厚労省の書類アンケート調査が年々増加していつている。データが多くなっている時代に紙ベースが増え対応する事もどんどん増加していつている。市町村単位で人材も確保が難しい中、海外の人と地域を結ぶパイプを作り、それを送り込む事業所との繋がり等を作れば良いと思うし、やってもらいたいと思う。 ・有償ボランティアによる、援助システムの構築（社会福祉協議会に依存しない）。 ・人材確保が難しい。他の業種に取られてしまう？のか！？時給（最低）もどんどん上がって売り上げ↓人材・人件費↑と苦しい。 ・高齢化が進んでいるので、介護が必要でも働ける場所や移動手段があると活躍出来るし安心出来るのではないか。 ・各ケアマネジャーが共通して情報が共有出来る為のツールがあっても事業所のパソコンしか見れない。特別養護老人ホームの待ち人数が多い。 ・高齢者が多い事は感じるが、喫茶店等に集まって悩み相談等をしている姿をよく目にする。そういった場で何か情報発信等出来たら良いとは日々感じる。 ・訪問サービスAの提供時間が45分の為、以前の予防介護は1時間あり、サービス内容を削る形となり、利用者様からお困りの声をいただく事がある。

4. 民生・児童委員

(1) 世代や居住歴をこえた顔の見える関係づくりについて、どう変化しましたか。

平成 27 年度アンケートでの意見（問題点・困りごと）の抜粋

- ・コミュニティイベントへの参加が低く、つながり不足
- ・個人情報保護のため地域住民の情報が把握できない 等

	件数	その理由
①良くなった	17 件	<ul style="list-style-type: none"> ・校区コミュニティフェスタの参加者が年々多くなったと聞いている。民生委員のブースもあり、地域との関わりもコミュニティを通じてつながりが深くなったと思う。 ・町内会、放課後児童クラブ、民生委員が常に連絡し合い、近所の人々とのつながりを作っているから。 ・地域にサロンが開設されて一人暮らしの方で情報交換が出来るようになり隣との会話が出来ようになった。 ・住民の情報がわからない為、積極的にあんしん君と一人暮らしの登録を進め入ってもらった。 ・コミュニティイベントの参加が少しずつではあるが増えてきている。コミュニティに民生委員が全員参加することになった。 ・イベント等の参加は、地元コミュニティの行事が定着してきた為良くなったと思う。地域住民の情報は変わっていない。 ・市の地域住民の情報を活用し高齢者宅に等々良き関係が作れた。 ・若返り教室などコミュニティイベントへの参加が多くなり、また民生委員の手伝い人数も増えている。 ・市からの個人情報の提供がないため、地域住民の生活実態、困りごと等が把握できない。二人暮らし老人宅や老老介護世帯もきっと多いと思われる。 ・コミュニティイベントは、継続した事により参加者は増えている。当地域では、地域住民からの情報提供もあり、問題はない。 ・コミュニティ推進協議会に「福祉部会」として、民生委員が参加する事となりサロン等行事参加が多くなり交流が深まった。 ・コミュニティの認知やコミュニティの努力によって、少しずつではあるが向上しているように思う。 ・地域コミュニティが数多くのイベント等、開催してくれるお陰様だと思っている。 ・コミュニティ、民生活動が少しずつ周知されてきた。 ・コミュニティイベントの行事で増えた。 ・縁側サロンを毎月開催する事によって地域の情報が入るようになった。参加者は 30 名前後。 ・コミュニティの役員さんが頑張っており、イベントへの参加人数がちょっとずつ増えている感じ。

	件数	その理由
		<ul style="list-style-type: none"> ・コミュニティ内で居場所作りとして、サロンを開く事が出来た。 ・民生、防災の為に個人データを出してもらえるようになった。
②変わらない	45件	<ul style="list-style-type: none"> ・個人情報保護のため市役所と地域住民の情報が伝わらない。 ・コミュニティで大、小のイベントを開催(セミナー年8回・サロン月1回)イベントの開催は数多いはず。 ・個人情報保護法の観点から、相手の事がわからない。高齢者が多くなり地域活動が運営しづらくなって来ている。各人の問題意識がまだまだ育たない(高齢化の為にあるか?)。 ・古い町内の為、横のつながりは有るが高齢者が多く子どもが少なく、上下の関係が築きにくい。 ・情報の提供が無い。 ・情報、連絡がとりづらい。電話をしてもとらない方が多い。 ・町内会や個人も、何かをしようという努力がないと思う。 ・当校区全体のコミュニティイベントは例年同様の参加かと思う。子ども会、子どもの参加は減少傾向(少子化現れる)。 ・町内で住んでいる人の情報を把握できない。 ・リーダーがいない。 ・共働きの方が多くて家族での時間が第一のため、運動会(小学校の)には参加するが町内参加のボランティア協力(ゴミ0運動等)には協力してもらえない。 ・地域のイベントには積極的に参加し、話しかけて会話を増やす。特に親参加の方には話しかけるように心がけた。子ども会に参加しない家庭がある現代にビックリ! ・イベントへの参加は呼びかけているが、新メンバーが増えていない気がする。 ・担当地区の情報はとり入れようとするが、市などとの連絡が後手になってしまうことが多い。 ・個人の意識が変わらない限り無理。町内会の在り方を変える必要あり。 ・若い人より年をとられた方のプライドが高いと思われる(自分の事を言わない。例えば夫が亡くなくても、町内はもちろんすぐとなりの人にも言わず、ひとり暮らしでも人の助けは借りたくない)。 ・平成27年度アンケートでの意見と変わらない。 ・個人情報保護の為か、年齢が分かりづらく、ひとり暮らしの人に声をかけづらい。このままで良いのかと思ってしまう。 ・コミュニティまでが遠く、中々参加出来ない。高齢者登録している人は、情報もあるが登録していない人は全く把握出来ない。 ・車の運転等されないのでイベントの参加は出来ない。 ・情報の把握出来ない。 ・新しい家が沢山建てられて、どんな人達が住んでいるのか分からない。情

	件数	その理由
		<p>報も個人情報保護の為、把握しようと思っけていても全く住民の様子は分からないし、アパートの中の把握は0。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・人の移動もなく、安定していると思うが、マンションは外国の方の出入りがあり、関係づくりに課題あり。 ・コミュニティイベントの参加だけで判断できるのか？ ・イベントの情報不足では。自分は自分、他人は他人の関心が強い。 ・当校区にコミュニティイベントが少ない。町内会のイベントは子ども獅子くらいしかない。お年寄りが集うイベントが少ない。 ・家族葬になり今までは回覧で知らせがあったが情報が把握できづらくなっている。 ・町内のイベントが年2回あるけど知らぬ顔である。 ・コミュニティイベントへの参加者の顔触れはいつも一緒に参加したくても足の具合が悪くどうしようもない人もあり、認知度の低下により出席としておきながらイベント当日不在で所在確認が大変な思いをした事多く有り。 ・ひとり暮らし老人の方にコミュニティイベントのパンフレットを渡し、参加を呼び掛けているが参加につながらない。 ・商店街もなく、まとまった団地もなく農協としての協力をしながら生活する地域ではない自営の方もちらほら、ほとんどが家に帰るのは夜。ほとんど夫婦共働き、親と同居もほぼない。コミュニケーションを取る必要性を住民が持たない。 ・参加者は人数的には変わらないと思われる。町内により、参加者の人数が片寄り、役員だけの参加の所もみられる。 ・参加したいと思っけても、会場へ行く足がない。バスが使いにくい。遠回りになるので時間がかかり過ぎ。 ・子育ての世代の女性が多く地域行事等に中々参加が少なくなっているのではと思う。 ・コミュニティイベントへの参加が低く繋がり不定。コミュニティのイベントに行きたくても、遠いし交通手段がない。巡回バスが遠く利用できない。 ・サロンについて、地域等でチラシにて発信をしているか出席者が同じメンバーばかり。 ・サロンについて、活動資金不足が悩み。 ・イベントへの参加も毎年同じメンバーである事。 ・コミュニティイベントは同じ方が参加している。一人暮らし登録している方は把握しているが他の方達は判らない。子ども会も無くなった。 ・個人情報保護が何かにつけて固すぎてやりにくい。 ・町内会長さん、町内役員さんの名前を知らなすぎる人が多い。 ・町内の総会に出席する人が決まっけていて年々少なくなっけてきている。

4. 民生・児童委員

	件数	その理由
		<ul style="list-style-type: none"> ・町内に子ども会はあるが、児童数は少なく、夏のラジオ体操、秋祭り等も参加者が少なく盛り上がり欠ける。 ・町内会の会長が出席者にお願ひもするが、用紙に名前を書いて下さいで終わりだから、もっと参加をお願ひしなければ同じメンバーばかり。 ・コミュニティイベント自体は高齢化で、田を委託する家が増えた事もあり増えた。老人クラブに参加する方達の交流は活発だが、受身的。(個人情報保護の為地域住民の情報が把握出来ない) これは相変わらず。10代後半～30代くらいが空白な感じ。
③悪くなった	9件	<ul style="list-style-type: none"> ・高齢の為かコミュニティイベントの参加が低くなった。 ・町内によって住民のつながり方の多い少ないがある。施設や病院に入っても、隣の人など親しい人にだけ知らせている人や知らせない人も多い。施設名や病院名は近くの人には知らない。 ・町内会組織の弱体化。(高齢化含む) 広報ポスティングによる近隣住民の接触機会の減少。家庭中心主義に伴う、子ども会活動の弱体化。 ・高齢化による関わりを持つ事の難しい方が増えた。 ・老人が孤立している。 ・これまで会を行っていた場所が閉じてしまい、遠方まで出かけなければならなくなったため、話せる場所がない。 ・町内単位の防災組織に民生委員も加わって話し合いができると、ひとり暮らしの高齢者への支援がしやすい。 ・町内の神楽太鼓を指導しているが、子どもの参加率が激減してきた。(80→40%) お母さん方の共稼ぎで送迎困難となったため。町内の老人会参加者が減少してきたが、一人住まいの高齢者は増加している。残念ながら悪化していると思われる。 ・町内代表者が一年ごとに変わり、前年度と同様との考えが多い。 ・役等がまわってくる組織への参加、加盟が減少している。反面、参加するだけの責任を負わなくても良い行事への参加は増えている。個人情報による行事等の報告、ホームページ等へのアップも困難になってきている。
④わからない	8件	<ul style="list-style-type: none"> ・最近、住居が増え続け、どの様な人が住んでいるか把握できない。市からの情報(一人暮らし登録等)からしか分からない。

(2) 高齢者の生活支援と生活の質の向上について、どう変化しましたか。

平成 27 年度アンケートでの意見（問題点・困りごと）の抜粋

- ・高齢者の居場所、憩いの場が不足している
- ・高齢者が買い物難民になっている
- ・高齢者が悩みを外に出さず一人で抱え込んでしまう 等

	件数	その理由
①良くなった	17 件	<ul style="list-style-type: none"> ・情報（役場から）が増えた。 ・コミュニティ、社会福祉協議会、地域包括支援センターなどが、居場所作りを始めとしてさかんに活動しており、良くなったと思う。 ・民生委員宅が役員会、放課後児童クラブ活動の集会所になっているため、いつでも集まりができるから。 ・結構高齢者の人は宅配を利用している方が多い。安くて新しい商品を届けてもらえるらしい。 ・コミュニティセンターでの憩いの場、コミュニティとしての場。ただ、人と話すのが苦手、出不精な方とのコミュニティは難しい。 ・ひとり暮らしの方の相談にケアマネジャーの協力でお弁当を注文したり、体を動かす施設に半日バスの送迎で行ったりしている方が増えて、声を出す機会があり良かったと思う。 ・お寺を利用し、昼食をふるまう等して参加してもらおうよう、道中買い物等出会ったら話しかける。 ・当地区では、廃業した喫茶店を引き続き集いの場として活用している。少しずつでも高齢者の生活支援の輪が広げられたらよい。 ・憩いの場所として月 1 回コミュニティに集いをしているが、常に 2、30 人は集まり食事やおしゃべりの場を提供している。 ・住民が集える「一休み」という場所ができ、今後この場所を活用し引きこもりの人も誘い出す活動をしていきたい。 ・地域包括支援センター等市のサービスが充実してよくなってきたと思う。 ・近くにスーパーが出来、良くなったと思う。 ・高齢者同士が声を掛け合って、行事に参加したり、集まりに出掛けたりしているように思われる（介護施設やボランティア団体の活動により）。外に出る人は問題ないが、家に閉じこもっている人の把握が難しい。 ・老人会に入っている方達は公園の草取り、旅行、お茶会等で元気に楽しくしていると思う。 ・社会福祉協議会が幾多のイベントをしていくくれる。 ・高齢者の居場所、憩いの場が不足している？コミュニティでの場が多くなっている為、自分の足で行ける人は楽しいひと時を過ごして見えている。
②変わらない	41 件	<ul style="list-style-type: none"> ・27 年度のアンケートとあまり変化ない。 ・高齢者の方の生活にまで踏み込むのはむずかしい。ひとり暮らしの高齢

	件数	その理由
		<p>者、認知症の恐れのある人が集える場所の提供は必要。これらの情報が周知できない点も多い。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・高齢者の居場所が不足。市のバスも通らず足がないので不便。 ・ひとり暮らしの登録が少ない。 ・町内会組織を活用した高齢者対策を行わないと、真に支援を必要とする人の対策にはならないと思う。高齢者のみの世帯、ひとり暮らしの高齢者については本人の拒否が無い限り、自動的に町内会に情報提供する旨、積極的に対応する必要があると思う。 ・いつも参加する人は参加。個人の資質によるものなのでむずかしい。 ・相変わらず、高齢者に対する詐欺の話が多い。 ・コンビニが有力。行政は無力、税金ドロボー。 ・町内でのイベントが少なく、参加者も無い。 ・ふれあいバスの使い勝手があまりよくなくて、買い物へ行くのも病院に通うのも不自由を感じるという意見あり。本数を増やすか、乗り継ぎ時間の改善、タクシーチケット配布に幅をもたせるなどがあってもよいかと思う。 ・あいかわらず、一人住まいの高齢者との接触の機会がほとんどない。唯一老人会のサロンだけである。 ・高齢者の話を良く聞き、特に困り事や悩みに相談しサポートしてきたが？ コミュニティイベントへの参加を声かけしましたけど？ ・地域とのコミュニティで災害時の対応について話し合いができていない。 ・生活の質については民生委員として把握しにくい（経済状態、家族関係等立ち入りができない）。 ・昔からの住民は高齢者になってからの情報を発信したくないようである。 ・平成27年度アンケートでの意見と変わらない。 ・高齢者が集まる場所も不足しているのもあるが、動けない人が多くコミュニティセンターまでも遠い。 ・外出されない。 ・買い物は、コンビニ等にて用は足されているが、家から出にくい（足が悪い人）等は分からない。 ・町内1人1人の関心が薄い。情報交換がない。生活水準に差があって孤独になっている。 ・毎年行われる社会福祉協議会の日帰り旅行も車がある人は参加出来るが足の悪い人は中々参加出来ないでいる。 ・当地域にも「老人会」ができ、町内会、老人会同士の声かけ、行事参加が多くなり少し情報共有が出来始めた。 ・高齢者の買い物は確かに困っている。近所の個人店舗は閉じられ元気な方はふれあいバスでスーパーに出掛けているが、足腰の悪い方は孫に頼んだりして乗り切っている。

	件数	その理由
		<ul style="list-style-type: none"> ・居場所や憩いの場は大きな会ではなく集会所等でお茶会を開く程度が良いという声も聞く。 ・中規模以上の喫茶店等がなく、少し離れた所に移動する手段に乏しい。 ・市民病院も今や不安なところ、遠くに移動する安価、便利な公共移動手段がない。 ・誰かが仕切るのではない、ゆっくり暖かな居場所がない。 ・買い物をするにも小型のスーパーがなくなり遠くに行かなくなりコミュニティバスを利用するも良いが回数が少ない為利用しにくい。 ・高齢者が買い物難民になっている。巡回バスが遠く利用できない。 ・高齢の親が、ひきこもる子どもの面倒を見る「8050」問題の支援が必要。 ・憩いの場、イベント不足等。 ・独居老人の増加になり地域隣り近所の方々が買い物にお供している。 ・健康な高齢者は催事に参加してくれますが人数的には少ない。 ・悩みだけでなく近況、趣味、習い事を話してくれる。 ・思った程に広がっていかない。何事も。 ・コミュニティ内での行事にも中々新しい顔ぶれは見られない。 ・元気な高齢者は、グループでお茶したり、趣味を楽しんでいる。また、昼間買い物等目的を持って往復ウォーキングしている人もいる。身体の不自由な方の憩いの場が町内にはない。 ・個人情報保護の観点から高齢者の登録が出来ていないので声をかけることも出来ない。 ・ひとり暮らしの方が、近くのコンビニ以上となるとタクシー利用になっているのではないかと感じている。バスの便数が減って不便。 ・サロンに誘うが増えない。各民生委員が連れ添って来てくれると良いが。
③悪くなった	6件	<ul style="list-style-type: none"> ・高齢者の居場所、憩いの場が不足している為、情報が得られない。 ・人口の減少。 ・近隣の八百屋さんや肉屋さん等がどんどん無くなり、大型スーパーにとって替わり、高齢者が買い物難民になっている。ひとり暮らし老人の増加に歯止めがきかず、孤立化している。最近の災害に対して不安である。 ・喫茶店が閉店して、憩いの場がなくなった（歩いて行ける所）。 ・年齢が高くなり日常生活の行動が悪い様子。買い物難民。 ・免許返納による支援不足が心配される。憩いの場に来る人と全く来ない人の差が激しい。
④わからない	15件	<ul style="list-style-type: none"> ・足が悪くて歩けなくなった人は、援助者がいないとどんなイベントにも参加できないし、外出できない。町内単位での助け合いも必要であるが、町内会が機能していない。 ・独居老人で民生委員の支援対象者以外の人々の状況がわからない。 ・家族構成もわからないので町内会としても何もできない ・ネットサービスで電話注文等工夫して買い物をしている様。災害の際の行

4. 民生・児童委員

	件数	その理由
		動について不安が感じられる。 ・一人で抱え込んでいるのではないかと思う。 ・個人情報とかで中々生活状況まで踏み込めない。

(3) 地域ぐるみで子どもを見守り育てる体制づくりについて、どう変化しましたか。

平成 27 年度アンケートでの意見（問題点・困りごと）の抜粋

- ・歩道の整備ができていない
- ・長期休暇中に学童保育に入れず困っている親がいる
- ・学校からドロップアウトした青少年の居場所、再起の道がない 等

	件数	その理由
①良くなった	17 件	<ul style="list-style-type: none"> ・子ども会、放課後児童クラブと一緒に活動するため、親の相談にのり見守りする人が増えたため。 ・歩道が広くなり、通学が安全になった。 ・通学路の緑の色分けなどわかりやすくなった。地元の高齢者を含めた、見守り隊の活躍によるところが多い。 ・歩道が整備され、横断がしやすくなった。反面交通量の多い別の場所で、横断歩道があっても止まらない車が多く、朝の時間帯は事故にならないか心配を感じる。 ・月 2 回の清掃活動で、通りかかる中学生へのあいさつの声かけは見守りにつながるのではと考え行動している。 ・放課後子ども教室に加え、見守り教室（夏休み）が実施されたが、色々な問題も上がってきているよう。 ・月に 1 度ですが、小学校の校門の前で朝あいさつ運動をしている。あいさつ（おはよう）を言う時に、軽くでよいのですが会釈をする様になってほしいなあと思っている。 ・地域ぐるみで子どもを見守り育てることについては、民生委員児童委員協議会児童部会においても、独自に調査研究し学習している。今後とも地域ぐるみで子どもを見守り育てる活動が広がるとよい。 ・近辺の歩道は最近整備され良くなった。他の事はあまり分からない。 ・小・中学校の先生方と地域の方、情報スムーズになった。 ・H30 年より通学の見守り隊が発足した。 ・用水に柵を設置した事で安全面に改善が見られた。子ども会が減っていく中、継続しているところもあるので、地域のつながりの為にこのまま続けていく必要があると感じている。 ・歩道の整備、先生の見守り（下校時）。 ・挨拶運動をして元気に挨拶してくれる子どもが増えた。（小学生が多い）中学生は頭を下げるだけの人が多い。 ・通学路の緑色帯が増えている。 ・長期休暇中の子ども達の居場所作りがされた事はとても良い事と思う。まだ、多くの問題点は有ると思うが（多くの学校区において）。 ・先生と生徒、児童達の心の繋がりが中々難しい様に思う。先生方の時間の使い方、子ども達の時間の使い方を調べ、交流時間を作る事が出来たらと思う。中々、先生の良い所、子どもの良い所が伝わっていない様な気がする。

	件数	その理由
		<p>る。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・登下校の時「おはよう」「おかえり」と声をかけると元気に挨拶してくれる。
②変わらない	36件	<ul style="list-style-type: none"> ・車道の整備はしているが、歩道の整備が後回しになっている。交通弱者の子どもの通学路、高齢者を視野に入れた歩道の整備が少ししかできていない。 ・通学路の歩道の整備ができていない。市に要望しても、前向きな検討（やる気）が全くないと感じる。児童の半分が通る箇所の改善なのに、市の姿勢はどうなっているのかと思う。 ・地域で子どもを見守ろうという意識は出てきたように思うが、なかなか成果につながりにくい。 ・学童の歩道で小学校からの帰り道に横断歩道を作ってほしい。 ・生活道でありながら、通勤道でもある為スピードが出ている車が有る。 ・制度や設備的な事は自治体の考える事とは思いますが、地域での体制について、どれだけの住民が理解しているかは疑問。 ・面倒をみる人がいない。 ・集団登校の時に立っているだけ。意味ない。 ・登下校以外、ほとんど子どもの姿をみない。挨拶ができない。 ・ただこれといった問題点、困りごとは今はない。 ・歩道の整備はできている地域もあれば、できていない地域もある。 ・学童の方も人気があり、入りたい児童が増えているが受け入れの場が増えていない。しかし、今後子どもの数が減少していくようなので。 ・関連の情報収集の手だてが広まっていない気がする。 ・学童保育は4月に登録してからで途中から入れないし、子育て支援課が行っている夏休みだけの子ども見守り教室も非常に問題がある。 ・県道沿い南側の歩道が、一部未整備のまま危険。 ・登下校等は、見守り隊の方々によって良くなっていますが、長期休業中、今は高台寺小、東小、蛭間小等に行っているが神島田小学校では是非、実施して欲しいと思っている。 ・そもそも子どもの姿を見かけない。子ども会もないので。 ・大人が子どもに対する意識が薄い、又無関心。 ・まだまだ「町内会」と「子ども会」との接点が希薄な感じがする。子ども達が安心して遊べる場所が少ない。 ・ここ数年町内に山車があるので、夏休み中とか祭前の数日間太鼓とか笛の練習に大人と子どもとのコミュニケーションが以前よりとれるようになってきている。 ・車と人との分離した歩道が少ない（通学路）。 ・交通委員として、小学生の登校見守りをしているが周りは他人事のように無関心の人々が多い。

	件数	その理由
		<ul style="list-style-type: none"> ・学校の先生等から聞いている限り青少年、子ども等、安定した生活をしてはとの事。 ・老人が朝の登校帰りの下校を見守り危険個所がないか注意している。縁側サロンにも幼児の参加もある（親子で参加）。 ・学童が道いっばいに歩いて通学していたが、道路に緑の線を引いていただいたおかげで良くなったのではないかな？ ・子育て、子どもと時を過ごす事よりも、就労し納税する事を是とする方向性を国が誘導している様に思える。対策ではなく根源を見直していく事が必要なのでは？子ども会が消滅し、子ども会に加入してくれない世帯も現れてきた。 ・地域子育ての意義が理解できてないと思う。学校に頼りすぎを改めることが必要。 ・交差点の安全整備が進んで安全度↑他の歩道のガードレールの設置是非！
③悪くなった	6件	<ul style="list-style-type: none"> ・今迄は神楽太鼓の指導を通して子ども達を見守る体制があったが、参加率の激減で体制がくずれ始めた。 ・子ども会もなくなってしまったので学童の困っている事すら分からない。 ・壊れた歩道橋が未だに通行できない。子どもの命を守るための最優先すべきことではないか！小学生の登下校に付き添う「子ども見守り隊」はよく見かける。 ・公園の張り紙を焼いたり、公衆電話から救急車を無言で出動させるという事が何件かあった。小学校とも連絡を取り合い対策案を練っている。 ・学校が開放されていない気がする。もっと地域住民と触れ合える学校になってもらいたい。子ども会の解散により、ますます地域と子ども達が疎遠になった。以前は子ども獅子や廃品回収もやっていた。今は子どもさんの名前も分からない。 ・夏休みのラジオ体操、秋祭り子ども獅子も縮小。
④わからない	20件	<ul style="list-style-type: none"> ・町内に子どもがいないから。 ・通学時には、見守り隊のボランティアがシフト体制で対応していただいているのが有難い。その他よく理解していない為、わからない。 ・0の日の交通当番で交差点に立つが、元気に挨拶もしてくれる。小学校の生徒は通学時だけの接点。後は小学校の運動会、情報交換会しか接点がない。近隣（町内の班）に子どもさんがいない。 ・歩道の整備は市の掃除日が1年に1回あるが、出る人がいない。私はゴミ出しの日の周辺の片付け位。県道の垣根の草取りは近隣のゴミ置き場のみ時々行う（草でなく木が続いてる）。 ・学校からドロップアウトした青少年の“駆け込み寺”の様な施設があると良いのでは。 ・預かり保育の終了時刻に母親が迎えに行けなく、職を辞めざるを得ないと

4. 民生・児童委員

	件数	その理由
		<p>いった話を聞いたことがある。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 周りに子どもがいないので。 ・ 町内にそのような子どもがいない。 ・ 児童委員さんとの関わりがほとんどなく、情報もあまり入らないのでなるべく学校行事に参加して見学している。 ・ 若い人と交わる場がない。町内の子ども会の活動がよく見えない。 ・ 子どもが気楽に話したりする場所と人が必要だと思う。学校と家庭の中のクッション的な場所と精神が安らげる人間関係。 ・ 近所に子どもの姿をあまり見かけないので。

(4) 障がい者サポートと生活支援について、どう変化しましたか。

平成 27 年度アンケートでの意見（問題点・困りごと）の抜粋

- ・障がい者の就労支援（卒業後就職できない人がひきこもりになる）
- ・本音を話せる人がいない保護者へのサポートが必要
- ・災害時自力で避難所に行けない人に障がい登録を勧めるも登録しない 等

	件数	その理由
① 良くなった	4 件	<ul style="list-style-type: none"> ・何かあれば車を出したり、ひきこもりがちの人には数人で声をかけに行ったりしているから。 ・少しずつよくなっていると思う。 ・某事業所が就労施設の建設を計画している。今後とも就労支援の場が広がることを期待している。 ・避難行動要支援者、支援体制について、各校区で検討されている。
② 変わらない	27 件	<ul style="list-style-type: none"> ・障がい者の情報があまり無い。 ・集いの場が必要だと思う。 ・となり近所でささえる事が必要。 ・障がい者の把握が出来ない。 ・相談にのる体制作りが必要と思う。 ・今迄障がい者との接触は躊躇してほとんどなかったがその状態が続いている。 ・障がい者の家族が閉鎖的で話しかけにくい。 ・障がい者が地域に心を開かない。 ・町内会長、班長といった近所の支援体制が不可欠。 ・把握出来てない。 ・障がい者支援で「良くなった」という話を聞いた事がないから。 ・障がい者のいる家庭があるのは把握してあるが、災害時要支援の登録がないのでどう対応していいのかわからない。 ・災害時要支援者の方々へのアプローチ対応はこれからだと思う。個人情報保護の問題もあると思う。 ・障がい者が普段から利用できる制度を行政側が情報提供してあげて欲しい。実際に障がい者支援をしている立場から見ると、まだまだ利用者が少ないと思う。 ・地域、町内への理解の浅さ。 ・難しいと思う。地域で就職されている方を目にする事がほとんどない気がする。 ・親の方々をサポートされている…と思えているのだろうか？どうあるべきか、もう少しこちらも勉強する必要があるのではないかな。 ・避難所に行けない人に登録を勧めて欲しい。 ・身体不自由や難病の場合の登録はぼちぼち増えている。ただ、個人情報保護オープンにしづらい方は難しいと感じる。

4. 民生・児童委員

	件数	その理由
③悪くなった	3件	<ul style="list-style-type: none"> ・助成金がない。 ・障がい者の孤立化が気になる。地域での障がい者の顔が見えない。個人情報障壁になっている気がする。 ・個人情報保護の為か私達見守る側の耳に入っていない。
④わからない	37件	<ul style="list-style-type: none"> ・障がい登録をすることも必要だが、登録をしても現実には避難所に障がい者を連れて行けるかわからない。障がいの程度にもよるし、災害の規模にもよる。隣近所の人との付き合いが大切。登録名簿を作っただけでは、助けることはできない。 ・見えにくい。支援大変。ブラックホールの様にエネルギーを取られる。 ・家の中に入り込んでみえるのでよく分からない。 ・障がい者の現状がわからない。 ・課題としてこれからも対応を検討する必要がある。本担当地区としては、情報がなくわからない。 ・障がい児がいる家庭で、近隣との付き合いを拒む為困っている。どうしたら話が出るのか。 ・どのような障がい者か、特に心の病かが見極めが出来ないので、思い切った話が出来ない（個人情報なので踏み込めない）。 ・個人情報もあり。なかなか把握できない。 ・健全者への理解を深めてもらう事も重要だと思う。 ・できる限りあいさつはするが、あまり会わない。 ・民生委員では実態がわからない。 ・地区内に障がい者の人がいない。目立たないかもしれない。 ・民生委員として直接かかわる事がないので分からない。専門の分野につながる事は、今後もしていく。 ・地元の障がい者の状況が分からない。 ・自分の町内にはその案件がない。 ・問題児がいない。 ・周囲にあまり見えませんので分からない。 ・災害時、障がい者の人が自力で避難出来ない場合、ご近所の人々が手助けしてくれるのか心配である。

(5) 防災の取り組みについて、どう変化しましたか。

平成 27 年度アンケートでの意見（問題点・困りごと）の抜粋

- ・避難場所、行動マニュアルを市民に周知不足である
- ・防災訓練に参加者が少ない
- ・小学校で防災組織はあるが、町内単位の組織ができていない 等

	件数	その理由
①良くなった	19 件	<ul style="list-style-type: none"> ・少しよくなったのでは。尾張地方にも近い将来、地震が来ることはニュースなどで知られるようになってきた。 ・毎年、みなおしがなされていてよい。 ・防災についての心得は出来てきている様に思うが、地域でのつながりがもっと出来る様になれば、いざという時に役に立ち易くなると思う。 ・町内会で避難所の確認、防災訓練に参加したりして、班単位で非常時の対策ができているため。 ・町内で要支援者への取組を始めた。 ・小学校での総合防災訓練には地域の皆さん大勢の参加があった。引き続き防災への取組を進めて頂きたい。 ・避難行動要支援者も登録されたので、今後は色々と分かりやすく運営しやすくなると思う。防災委員と民生委員は、活かしあって行動していかなければと思う。 ・最近の災害を見ていて、市民全体の意識は変わりつつあると思う。 ・関心のある人が増えてきた。 ・当地区の住民の防災に関する意識はとても高まってきたと思うが、町内での取組、小規模で良いから訓練があると良いと思う。何をしてもよいのか分からない。民生委員としては、炊き出し訓練はしている（年に1回）。 ・当地区の「防災会」が積極的に地区の「町内防災会」と連携して防災意識向上に努めている。 ・当校区では自主防災会が確立しており、校区全域の安否確認をし、講演会も行い参加者も大勢あり、まずまずの訓練が出来たのではないかとと思う。これは毎年恒例となっていて定着してきていると思う。 ・今、地域コミ等で防災訓練等に力を入れている所が増えてきていると思うが、それに参加する人が町内等では決まってしまっているよう。 ・コミュニティに防災組織が出来て年々防災意識が深まってきているように思う。 ・各地区の自主防災会のお陰様で変化してきていると同時に、各自が危機意識を持ち始めた。 ・コミュニティ、防災会、テレビ等の活動により防災意識が向上した。 ・当町では毎年1回防災訓練をしている。消防の方に来ていただき、消火訓練AEDの操作、新聞紙3日分でご飯を炊く方法等炊き出しも行っている。中学校のボランティア、子ども会の親子が参加している。

4. 民生・児童委員

	件数	その理由
		<ul style="list-style-type: none"> ・防災訓練に参加する者が以前より多くなり興味のある方が増えたような気がする。良いと思う。 ・やっぱりコミュニティ役員さんが頑張っていて、イベントをして人集めをして景品を出して頑張っている。
②変わらない	41件	<ul style="list-style-type: none"> ・町内単位の防災組織がない（高齢化によるものなのか？）。 ・民生委員としてすべき防災は、一般とは異なる対応が必要。 ・役員さんはわかるが、住民に隅々まで届いてないと思う。 ・避難所まで行けない思いが強い。道路面、距離、安全面不安。 ・町内単位の組織が出来てない。 ・参加意識が低い。 ・町内単位の防災組織を理解できていないため、民生委員も話し合いに参加し、支援方法を考えていきたい。 ・町内としての防災体制はほとんど構築されていない。町内会長も一年任期なので何をしたらよいのかわからない状態である。 ・防災訓練に関心がない人が多く、又参加者が毎年少ないです。 ・防災訓練の町内からの参加者は少ない。水害のとき、自主避難のタイミングなどの周知（案内）あると良い（どういう状況になったらなど、アドバイス入りのメールとか）。 ・災害時、町内で防災組織は出来ているが現実に稼働するか不安。 ・コミュニティでの防災訓練時、専門家の講演を行うとよいのでは。 ・訓練への参加は増えているように思うが、意識的な高まりはないように感じられる。 ・災害時要支援者の対応について。 ・防災組織は町内で大きな差がある。町内組織がないところがある。 ・町内会長、班長といった近所の支援体制が不可欠。 ・町内の組織が出来ていないから行動マニュアルもない、また参加しようとしにくい。 ・防災組織は、まず町内単位で組織され、その集合体が校区防災であるべきと思う。 ・毎年の防災訓練のイベントだけを見ても良くなったとは思えない。 ・ハザードマップは作成するだけではいけない。どれだけ住民に周知徹底がなされていない。 ・町内会で防災の取組に熱心な人がいない為、防災訓練に参加する人が少ない。熱心に取り組む人が数人いないと人が働かない。民生委員も町内会と連携できない。 ・防災訓練の参加者が少ない（毎年変わる役員のみ参加）。 ・防災に対しての考えがない。 ・避難場所、行動マニュアルを市民に説明する事が必要。 ・近年の災害の多発により住民の不安は増大していると思うが、いざとなっ

	件数	その理由
		<p>たらどうすべきかが全く分かっていない。避難場所も知らない人が多い。老人（特にひとり暮らし）の増加により大いなる不安を感じる。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・危機感がない（町内で防災委員がいる町内がほとんどない）。 ・この津島でどういう災害の時はどう行動するのが良いのか、正しい知識がない。 ・自助の意識が足りない。 ・コミュニティ、自主防災の組織は出来たが活動が無です。 ・防災公園の整備については評価できる。 ・私の地区は土地が低いので避難場所を臨機応変にしてもらいたいと思う。 ・避難所は、公共施設の老朽化等によって変わっていくが市民に周知されているとは思いきれない。 ・災害が起きた時、小学校まで避難するのは道中遠くて危険である。町内の中にある中学校、高台にある高校等に避難する様に考えて欲しい。 ・避難場所、行動マニュアル各町内に周知不足。 ・防災意識の低さは地域での連携、隣近所の付き合いの薄さに比例していると思う。傍観者となってしまう自分自身の事となりづらい。 ・近在の高い建物に個別で避難を申し込んだ人は存在するが、低地、川に近い故の防災対策は現実的でない現状。 ・避難場所が、自分達の住んでいる所より低い所にある為、避難の意味がないと思っている。避難場所も遠い。
③悪くなった	4件	<ul style="list-style-type: none"> ・住民、組織共意識が形骸化している部分がある様に見える。防災訓練は義理で出席しているのが実情であり、年々出席者は高齢化している。 ・自助、共助といわれるが、そういう関係性が把握できない。 ・市の勝手な避難経路作成などかえって迷惑している。 ・避難場所が遠くなり、出掛けてもらう事はほとんど不可能と考える。メール発信は多くされる様になったが、老人に対しての広報はとても難しくなっていると思う。もう少し方法を考えてもらえると良いかと思う。
④わからない	10件	<ul style="list-style-type: none"> ・避難行動支援同意者名簿が配布されたが、今後は地区の自主防災、町内会、民生委員の連携と協力をどのようにはかり、実行していくかにかかっていると思う。 ・組織で対応しないと対処できない課題で、どうすればよいかわからない。 ・私の担当地区は、防災も書類がまわってこない事もある。 ・訓練の参加する人が消極的。

(6) 空き家、ゴミ対策について、どう変化しましたか。

平成 27 年度アンケートでの意見（問題点・困りごと）の抜粋

- ・空き家住居が放置されている
- ・空き家の防犯対策、防災対策が必要である
- ・県道及び市道のごみの不法投棄が目立つ 等

	件数	その理由
①良くなった	13 件	<ul style="list-style-type: none"> ・犬のフンは少なくなった。 ・道路の「ごみ」拾い運動をしている。 ・放課後児童クラブと町内会でごみ当番制があり、また会長や衛生委員が常に管理しているため。 ・空き家住居の放置は少なくなった。 ・今年度からゴミ集積場に持ち込む町内の班に市が回収しない。分別の悪い袋を責任もって対応するようになった。昨年までは衛生委員 1 人で対応。 ・空き家の取り壊しを時々見かける。 ・町内で見守りしているのでよくなった（外国人には始め苦労していました。→日本内ルールがわからないため。） ・地区内に空き家はないし、ごみ放置も少なくなった。 ・地元の担当役員が頑張っているから。 ・小学生の通学路に空き家があったが、取り壊された。台風・地震の時でも安心できる。 ・少しずつ取り壊され、分譲住宅になっている。 ・空き家は取り壊され住宅が建つようになった。防犯（市からいただいた）腕章を畑に出掛ける時、犬の散歩の時に付けている方があり見守っていただいている。 ・近くに壊れそうな家がある。長年問題（シロアリ、人災が起こりそう）だったが、今年に入って解決がつかず壊す事になった。 ・空き家については、補助金の効果か、災害時の危険の認識の為か分からないが、街中でも解体される家も目にするようになった。ゴミの不法投棄は相変わらず。
②変わらない	38 件	<ul style="list-style-type: none"> ・ゴミ捨て、犬のフンなどがよく捨てられている。 ・気になる空き家は担当地区には少ないかと思う。 ・空き家は住んでいる方と連絡が取れず森になり木も道路をふさいでいるので困っている。 ・指定町内以外の方がゴミを置く事が多々有。 ・対策が変わってない。 ・町内にもいくつか空き家が放置されている所があるので、町内の役員の方と話し合い、対策する必要があると思う。 ・県道、市道も時々ゴミが落ちている！自宅は掃除も出来るが！外は！×。空き家はわからない。

	件数	その理由
		<ul style="list-style-type: none"> ・空き家住居が放置されている。犬のフンの始末せず。 ・隣の空き家を取り壊して欲しいとは思っているが、費用がかかる事なので無理を言えずにいる。 ・特に困っている空き家を市が強制力で撤去し、空き家に関する諸問題について「広報つしま」等で広く議論を巻き起こして頂いたら市民の認識が深まるのではないかと。県道市道へのごみの不法投棄ばかりでなく、田畑や農業用水へのごみの不法投棄も農業者としては何とかしてほしいものである。 ・まだまだごみの不法投棄が目立つ。 ・ゴミは当日、決まりに従い、出してあり空き家はそのまま。 ・家主と連絡取れない。 ・日光川、右岸堤防も全く改善出来ていない。コミュニティとして、たまに回収作業はしているが。 ・売り家に出しているようですが売れない。定期的に草刈りとかしている。 ・空き家がある場合は、市役所へ連絡がないから市役所が完全に把握していないのでは。ゴミは個人個人モラルに尽きる。 ・道路脇の田等に空き缶・ゴミ等が捨てられている。 ・団地の中でも空き家が目につくようになったが、買い手がわりと早くつきの付けられないような空き家は今のところない。 ・今後、空き家が増えるのではないかと（子どもさん達が他の土地で生活、老人世帯（現在））。 ・ごみの不法投棄は相変わらず多い。 ・年に2回のゴミゼロ運動の参加者は少しずつ増えているが、その場限りの感がある。町内のゴミ、犬の散歩中の糞尿等、人間の意識の問題が解決されないかと…。 ・ごみの不法投棄も多く、きちんと分別出来ない住民もいるし、他市から車で来て、ごみの回収場に放置するという事案もあった。空き家に対しては行政だけでは限界だと思う。 ・空き家から空き地に変わりましたが雑草が多く苦情が多い。 ・空き家の状況は市でも把握していると思われるが、雑草が大きくなると火災の不安もあり近所の人刈っている状況。 ・空き地にゴミの不法投棄が目立つ。 ・空き家については分からない。ゴミ出しのルールが中々守れない。 ・ゴミの不法投棄が相変わらずあり、家の周りは拾ってゴミの日に出すのだが、捨ててあるものがよく似ているので同じ人が捨てているのかなと思う。 ・以前とあまり変わっていないと感じる。 ・ゴミ（ボックス等）集積所が欲しい。 ・少しは空き家対策がされている様ですが、もう少し地域を広げて早く手を

4. 民生・児童委員

	件数	その理由
		<p>打つべきと考える。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・一人暮らしの高齢者が施設に入所したりして空き家が増えてきている。 ・ゴミの日に町内は指定場所に置くので問題ない。 ・都市部への若者流出による家の後継者不在に歯止めがきかない。
③悪くなった	10件	<ul style="list-style-type: none"> ・空き家が年ごとに増えている。 ・ゴミの不法投棄はアパート管理者に指導を徹底すべき。町内ゴミで、基本が守られていないゴミは大半がアパート関係。アパート建築許可時に管理者の責任を明示し、確約させるべき。原則はアパート敷地内に集積場所を設置する。 ・空き家、空き地が増えた。 ・空き家が増えた。助成金がない。 ・耕作放置の田畑、空き家が徐々に増加した。どうしたらよいのか。 ・空き地にゴミ捨て、指定場以外のゴミ捨てが目立つ。 ・ゴミの出し方が悪く、いつも収集されていない袋が残っている。まだまだ、犬の糞をそのまま又は田に放り込む人がある。 ・高齢化が進み空き家が増えた。 ・外国人が、住み始めたのでゴミの分別が出来ていない。言葉が分からないので説明しても意味が通じない。 ・畑の管理が疎かになって、草だらけに。空き住居の管理も手薄感あり。
④わからない	13件	<ul style="list-style-type: none"> ・該当者個人問題と思うが、社会的な対応として我々が何をすべきかわからない。 ・空き家で困っている、という事を聞かない。

(7) 民生委員・児童委員の権限と活動について、どう変化しましたか。

平成 27 年度アンケートでの意見（問題点・困りごと）の抜粋

- ・高齢者が施設入所した後の扱い、貴重品の扱いをどこまでやるのか
- ・ひとり暮らし要介護者の施設利用リスト等がないと状況把握できない
- ・コミュニティと民生委員・児童委員の関係ができていない 等

	件数	その理由
①良くなった	10 件	<ul style="list-style-type: none"> ・町内会、放課後児童クラブのお陰で、仕事が忙しいながらひとり暮らし、ひきこもりの人の確認ができているため。 ・当地域はコミュニティに民生、児童委員が全員参加する様になった。 ・多少はよくなったと思うが、コミュニティと民生委員の密な関係が図られるといいと思う。この地区は民生委員、児童委員はすべてコミュニティの中に組み込まれているので。 ・校区のコミュニティに3年前から参加し、活動も少しずつ起動してきている。 ・コミュニティ内に民生委員・児童委員が中心となって福祉部会を作り活動している地域もある。民生委員の活躍の場が広がっているのではないか。 ・小学校区でのコミュニティと関わり、色々な情報交換をしているので、助かっている。 ・民生委員が以前はコミュニティに入っていなかったが、今は役員として入っている所以情報の共有が出来ているのではないかと思う。 ・施設入所後は家族に任せてタッチしていない。当コミュニティにサロンが発足し年4-5回開催し半日楽しんでいただいている。 ・民生委員の役割が中々分かっていただけない場合、どの様な説明方法が良いのかももう少し勉強が必要かと思っている。 ・ひとり暮らしを訪問しているうち、信頼関係が生まれてきている。お喋りを楽しみに待ってくださっている人もいる。
②変わらない	43 件	<ul style="list-style-type: none"> ・ひとり暮らし要介護者の施設利用リスト等がないと状況把握できない。 ・コミュニティ福祉部会と一体行動してほしい。民生委員も組織補助の時代。 ・関わり合いがむずかしい。 ・コミュニティはよく利用する。児童、民生委員もよくミーティングするので良い状態と思う。施設に入所された時民生から手はなれるので、あまり気にしていない。 ・民生委員に義務があるとは思いますが、権限があるとは思わない。どんな権限があるのか教えていただきたい。自治体が本格的に個人情報の提供に際し、当事者の理解を得る手法を考える必要があると思う。 ・町内会、コミュニティとの関わりがない。 ・コミュニティとのコミュニケーションができていない。 ・行政や包括支援センター等の情報を定期的に提供や橋渡しが主活動は変わらない。ボランティア活動として自分が出来る範囲と考える。

	件数	その理由
		<ul style="list-style-type: none"> ・実費弁償費が減らされるばかり。増額をお願いしたい。 ・町内会/老人会/子ども会/婦人会等々との交流がまったくない。唯一町内の神楽太鼓の指導を通して活動ができています。 ・個人情報保護法の壁がある限り、変化はしないのだろうと感じている。 ・中には一人暮らし訪問の時、不快な場合がある（特に女性が男性の人を訪ねる時は考える必要あり）。 ・町内会単位で民生児童委員を配置すべき。町内会長が民生児童委員を兼任すべき（規則改正すべき）。 ・ひとり暮らしの家をまわってもその家族の方の住所も電話も知らされていないと困る事がある。 ・ひとり暮らし要介護者の施設利用リスト等がないと状況把握出来ない為、登録者のみに対応するしか出来ない。 ・情報共有の為活動出来ない。 ・マンションの人達が、出入りが激しく分からないし情報が欲しい。住人間のトラブルを持ち込まれて、困る事も有。悪口、嫌がらせ等。 ・個人情報邪魔して活動に障害。 ・民生委員がなり手がいない。その為、民生委員の支援が届かなくなるかも。 ・ひとり暮らしの男性の登録が少ないのが気になり。 ・昔から住んでいる人はある程度分かるが、新しく入居、転入してきている人の事が分からない。 ・当地区ではコミュニティとの関係性がいまいち。コミュニティへの参加により余分な仕事が増えると考える委員もいる。もっと地域のために緊密な関係性が出来ると良い。リーダーの姿勢が必要。 ・ひとり暮らし要介護者の施設利用リスト等がないと状況把握できない。 ・民生委員に介護情報を本人から聞く事もあるが教えて欲しい。施設に入っている方は一人暮らし登録から外したらどうか？ ・活動回数は多くなったが、町内全体に周知度低い。一人暮らしの方への見守り以外の活動。 ・コミュニティとは、地域情報の交換程度なら良いがイベント等のコミュニティ事業を手伝うのは民生委員の本分ではない。 ・コミュニティと民生委員児童委員の関係が出来ていない。 ・後任者の選定が年々難しくなっている。 ・不在入所を近所の方が教えてくれる事もあるが、往々にしてその確認作業の存在かと思う時がある。 ・ひとり暮らしの高齢者の親族が面倒を見ているケースが多い。身寄りのないひとり暮らしの高齢者については、町内や民生委員、公の力が必要である。私は現在15人の高齢者を担当しているが、1人で全く親族がいない人は1人ぐらいだと思う。担当地区を歩く時は、知らない人にも「おはよう、こんにちは」の声かけをしている。

	件数	その理由
		<ul style="list-style-type: none"> ・ひとり暮らし登録の人がケアハウスに入られても分からない事が長く続く。その時市から連絡をいただくと助かるが、未だ出来ない状態。
③悪くなった	4件	<ul style="list-style-type: none"> ・仕事の内容が多くなった。 ・デイサービスを利用して見ると、中々会えない。デイサービス事業所の方が把握できるのでは？ ・コミュニティとの関わりが少ない。
④わからない	15件	<ul style="list-style-type: none"> ・高齢者の施設利用者が把握できない。コミュニティとの関係ができていない。 ・本来の民生委員の活動の他に、地域コミュニティの活動もいやおうなしにすることになっているが、そのコミュニティの活動が多すぎて本来の民生委員の活動に支障をきたさなければいいと思う。 ・高齢者が施設入所したという情報が民生委員に届くようにしてほしい。訪問したときに留守でも、理由が分からないと不安である。 ・民生委員も会長さんは本人第一主義と言ってくれた。登録されたひとり暮らしは面会できるが、施設に入っている方等は対応できない。 ・一人世帯で施設に入られたことを本人からも連絡なし。地域包括支援センターの担当者を知っていたので、電話で聞いて知った。 ・“権限” というものはないし、あったら責任重大。ボランティアでは、何をしたらいいのか？この時代（個人情報保護）自分達の動きに戸惑いを感じる。 ・どこまで関わるかの権限がよく分からない。民生委員の事をよく知らない人にとっては苦情処理係的な役目だと思われる時もある。ひとり暮らし老人の訪問では、話し相手として待っていてくれる人がいるのは嬉しい。 ・民生委員の活動の仕方が校区で違って良くなったのか悪くなったかは分からない。

(8) その他、地域福祉の現場での問題点や困りごと、悩み、お気づきの点、課題解決のために取り組むべき施策・事業アイデアなどがありましたら、自由にご記入ください。

件数	自由意見
37 件	<ul style="list-style-type: none"> ・これからはコミュニティ中心に民生委員は協力する形が良いだろう。もっと高齢者の憩いの場所を作ってもいいのでは。もっと個人情報を開示しても良いのでは。 ・民生委員を頼まれて引き受ける時点では、全く仕事内容が説明されていない。民生委員を卒業する時、本人が後任者を探さなければいけないということは全くおかしい。なりてがない民生委員という仕事は、今の社会がおかしい。個人情報を守ることより地域のつながりの方がとても大切にしないといけない。 ・ひとり暮らしと民生委員をもう少しオープンにして欲しい。施設に入居されていたり、病院に入院されていても何も連絡がないから困っている。 ・民生委員の資料室を作してほしい。調べもの、資料ファイリングなどしてあると良い。本来なら、「民生委員たより」など広報発信すべきでは。 ・コミュニティとしてまとまるためには、日中家にいる老人の方々の助けはとても重要だと思う。また、町内会やコミュニティの集まりが、その町内でできるとお互い近い関係を築きやすい。いつでも相談できる場所と、顔見知りの人が増えることは日常生活と非日常生活の安心感につながると思う。 ・民生の課長さんが慣れた頃に交代されるのがちょっと残念かな。 ・高齢者や障がい者について、各種名簿未登録者に対して、名簿登録を促す媒体を送付する。送付方法は国保の保険証更新時等に同封し、毎年行う（災害時の要支援者、高齢者ひとり暮らし等）。 ・市街化調整区域であるので、環境整備が十分でない。その為、生活する人が減少し、町内会も限定された人での運営となっている。全世代が増加するような施策をしないと町内が成り立たなくなるであろう。 ・他の地区（市以外）で本当にこまめにボランティアを利用しているところがあり、本当は少しでも手伝いたいと思っているが、なかなか一歩が踏み出せない。例えば、カラオケは上手な人が上手に歌っているが、上手ではないが懐かしい童謡や唱歌などを楽しく歌う会などを開きたい。コミュニティにカラオケセットがあるので。 ・少子化対策が問題である。このまま超高齢化社会になるのが非常に不安である。能力的にわからないことが多く、先進地域等の情報（施策やアイディア）収集が必要と考える。情報過多の中での取捨選択し、地域にあった対応をする為の体制が必要と思う。 ・市は税金を減らすことが一番の地域福祉。考え方を根本から変えた方がよい。 ・6月に避難行動要支援者同意者名簿をもらい、「ひとり暮らし老人登録者」の方は回って安否確認しているが、それ以外の方の確認がとれていない。いざというときに困らないようにしておきたいが、どのように把握するとよいか、又名簿の使い方がよく分からない。 ・児童委員の主な活動が、あかちゃん訪問とおたまじゃくしのため、民生さんの様に学校や地域の方々との関わりが少なく、具体的な事がわからない部分が多い。 ・民生委員の活動が個人的な動きにとどまっており、町内会、子ども会、老人会、婦人会等々との団体に組み込まれていない。各組織に組み込まれていると活動が理解されるのでは…？

件数	自由意見
	<ul style="list-style-type: none"> ・町内各位が、市の福祉事業を一片通りのものしか受け止めていないと思われる。少しでも広く理解できるPR催しを企画して欲しい。 ・民生委員の後任者決めが、一つの大きな課題（引受手がいない様）。 ・民生委員も登録された方は対応できるが、新たな方の登録等は同じ町内の班長なら対応も可。他の町内は中々把握できない。 ・高齢者に福祉タクシーの制度をお願いしたい。 ・民生、児童委員の採用については、推薦制をとっているようだが、公募制にしてはどうか。やる気のある方が集まってくれるのでは。 ・地区懇親会を小学校区から各町内とし、町内会の組織を活用することになるが、市が出向いての啓発が必要。 ・津島駅の西側ロータリーの水はけが悪い。 ・地域福祉を担当されている皆様や社会福祉協議会その他関係の皆様のお考えがもっと自由に、どしどし実行できるように、仕組みを工夫して頂ければと思う。 ・75歳までという年齢は高すぎる。民生委員自身の健康面、体力面がおぼつかない。制度を根本的に見直す時期である。 ・気軽に参加出来るイベント、サロン等あれば良い。 ・高齢者への市からのお手紙、もっと大きな文字で分かりやすい言葉に。コミュニティのイベント活動が多くて本当に良いのか。 ・防災については、1人の民生委員が一人暮らし高齢者、障がい者へのサポートは現実的には無理があると思う。災害時要支援者登録をしてもらう事の意味は?? どうせ何も手助けできないのなら無意味では? ・年に2回程度、市職員と民生児童委員による会議を実施したらどうか。 ・全ての事について民生児童委員に問題等をぶつける事はおかしい。 ・当地区に関しては平常時は近所、助け合ってやっている。会合の参加率もいい。災害時は高齢者住宅なので頭の痛い所。 ・私自身も65歳の老人となり、辞めたいが、後継者を探すのが困難な状況。 ・ひとり暮らし、障がい者リストの個人情報の取り扱いにおいて町内会長が毎年変わる所のケースもありプライバシーの保護の問題があると思えば難しい問題かも? ・高齢者のひとり暮らしと新聞社が行っているみまも一るの両方が同じような仕組みなので、情報共有できる仕組みがあると良いと思う。 ・8050問題、ひきこもりの方々をどうやって見守っていったらいいのか。問題を抱えている家庭へ中々入り込めない災害が起きた場合どのように伝えたらいいのか。命の大切さを知って欲しい。 ・私の子どもの頃に比べると近所付き合いが減ってきている。井戸端会議があるといいのと思う。 ・ひとり暮らしの人に配食をしているが、喜んでいただいているが弁当の中身が味気ない。もう少し工夫をしてもらおうと思う。 ・障がいのある方との関係が中々行政とうまくいかない様な気がする。もう少し、分かりやすい案内が出来ればと思うが、機関との繋がりを説明しづらく、勉強が私も足りないと思うが、

4. 民生・児童委員

件数	自由意見
	<p>分かりやすく道順を表していただけると有り難い。</p> <ul style="list-style-type: none">• 夫婦であっても75歳を過ぎた方でも登録出来たら少しでも声掛けが出来る。• 防災において、現実にその状況になった際の運営のシュミレートが出来ているのだろうかという疑問がある。スフィア基準を（今は）目標と出来ないだろうか？

5. 障がい福祉事業者

(1) 新たなサービスを行う上での問題点や課題について、どう変化しましたか。

平成 26*年度アンケートでの意見（問題点・困りごと）の抜粋

- ・ 児童発達管理責任者の採用が難しい
- ・ 重度障がい者を受け入れる生活介護事業所が少ない 等

	件数	その理由
①良くなった	2件	<ul style="list-style-type: none"> ・ 生活介護のグループホームができるので多少よくなったかと思う。 ・ 今年度のサビ管研修では、過半数が児童発達の施設から来ていたので、今後もその傾向で管理者の方が増えていくと良いなと思う。
②変わらない	8件	<ul style="list-style-type: none"> ・ 事業所は増えてきているも、サービスの質の問題も増えているのではと思う。 ・ 施設が充実したという話をあまり聞かない。サービスは多用化しているが、1つ1つの事業所の稼働率はどうなのか？ ・ 重度重複障がい者の受け入れ事業所（生活介護）の不足は解消されていない。 ・ 重度障がい者の受け入れはまだ難しい。 ・ 重度障がい者を受け入れる生活介護事業所が少ない。
③悪くなった	3件	<ul style="list-style-type: none"> ・ サビ管の制度が厳しくなり、おかしな事業所が増えた。名前だけのサビ管さん、重度者を断って、重度者の中の他害なしの人以外は受け入れてもらえない。安全があっても断られる。市外の事業所にいかざるを得ない。 ・ 人材不足。 ・ 児童指導員の採用が難しい。
④わからない	9件	<ul style="list-style-type: none"> ・ 現状把握出来ていない。 ・ 分からない。 ・ 比較出来る情報を持っていない。

※障がい福祉事業者へのアンケートは、平成 26 年度に実施した「第 4 期津島市障がい福祉計画策定のためのアンケート」で得られた意見を引用

5. 障がい福祉事業者

(2) 津島市において不足しているサービスについて、どう変化しましたか。

平成 26 年度アンケートでの意見（問題点・困りごと）の抜粋

- ・日中一時支援、ヘルパー事業所で稼働していないところが多い
- ・グループホーム、短期入所、生活介護が圧倒的に少ない
- ・就労継続支援 A 型、就労移行支援事業所があるとよい 等

	件数	その理由
①良くなった	8 件	<ul style="list-style-type: none"> ・大きなグループホームが出来た。うちも新たにグループホームを立ち上げ予定。 ・新規で立ち上げている事業所がいくつかあるので、良くなったと思う。 ・事業所は増えている印象がある。 ・就労関係事業所は増加してきているが、短期入所事業所の不足は継続している。 ・開所 1 年は、就労移行の活用方法がいまいち分からない方が多かった様思ったが、現在は大分、相談員さんや関連機関の認知が増えているように感じる。 ・A 型事業所は少しは増えてきている。女性の入所出来るグループホームが少ない。 ・事業所が増えた。 ・グループホームへ入りたい人は多くなってきているから、施設もたくさんできている気がする。
②変わらない	3 件	<ul style="list-style-type: none"> ・ニーズとしては増えている印象を受ける。
③悪くなった	4 件	<ul style="list-style-type: none"> ・ますます、同行援護が使えなくなった。ヘルパーさんの高齢化で対応できない（調理だけとか）。ヘルパー不足を理由に日数が減ったり、断られたりしている。グループホーム増えるがすでにいっぱい。緊急のショートステイはあいかわらずない。A 型がもっとあれば、就労させてくれる移行支援がない。 ・稼働もだが、質が良いサービスが出来ているのかが分からない。サービスが増えてもニーズと違う事業所があるのでは？ ・障がい福祉サービスの希望者が増加しているが、相談支援事業所や相談員が不足している。 ・相談支援事業所に相談に来る人数が増え、大変である。
④わからない	7 件	<ul style="list-style-type: none"> ・分からない。

(3) 地域移行、一般就労移行について、どう変化しましたか。

平成 26 年度アンケートでの意見（問題点・困りごと）の抜粋

- ・就職先、受入先がない。受入後のサポート、継続していく支援が少ない
- ・ジョブコーチが必要
- ・バックアップ施設と海部障がい者就業・生活支援センターの連携 等

	件数	その理由
①良くなった	3 件	<ul style="list-style-type: none"> ・当ホームの利用者の大半が就労継続の A 型や B 型を利用しているが、相談員さんも含め十分連携が取れている印象を持っている。 ・あいちサポートデスクが設置されたり定着支援事業が始まった事により、企業様での支援員のフォローアップがしやすく、より定着に結び付けられる制度が出来たので今後に期待！！ ・最近では就労定着支援が少しずつ体制が整い始めている。
②変わらない	8 件	<ul style="list-style-type: none"> ・派遣の仕事が増えている。人材不足の為即戦力として希望する企業が増えている。 ・入所施設からの地域移行の拡大は家族の意向もあり円滑に進んでいるとは言い難い。 ・挙げられている課題は、今後も継続して取り組む必要がある。 ・連携が不十分だと思う。職員の不足。 ・就職先を紹介しても中々むずかしい。一般社会はやはりむずかしいと言われる。
③悪くなった	1 件	<ul style="list-style-type: none"> ・悪くなったとしか言いようがない。A 型ができてよかったという気持ちもある。
④わからない	10 件	<ul style="list-style-type: none"> ・分からない。 ・就職先を探しているが中々見つからない。 ・あまり関わりがないので分からない。

5. 障がい福祉事業者

(4) 他の団体との連携について、どう変化しましたか。

平成 26 年度アンケートでの意見（問題点・困りごと）の抜粋

- ・相談支援事業所、学校、保護者と個別支援会議を開く
- ・同じ障がい児サービス事業所同士の交流が少ない
- ・事業所が特別支援学校や特別支援学級と連携強化したい 等

	件数	その理由
①良くなった	8 件	<ul style="list-style-type: none"> ・障がい者総合支援協議会等に参加するようになった。 ・多少は連携する事が増えたと思う。 ・個別支援会議は増えた印象はあるが、まだまだな気がする。 ・就労移行支援においては、津島ハローワーク、海部障害者就業・生活支援センター、他事業所との月 1 の連絡会が昨年から行われる様になり、情報共有しやすくなった。 ・学校、保健所との連携が増えている。 ・学校、幼稚園、保育園との連携、情報共有の為、担当者会議が定期的に行われるようになった。
②変わらない	4 件	<ul style="list-style-type: none"> ・事業所同士の交流はあまりないように思える。 ・連携している印象や動きがない。
③悪くなった	1 件	<ul style="list-style-type: none"> ・中学校との関わりが薄い。
④わからない	7 件	<ul style="list-style-type: none"> ・分からない。 ・判断出来ない。

(5) 障がい者を取り巻く地域社会のあり方について、どう変化しましたか。

平成 26 年度アンケートでの意見（問題点・困りごと）の抜粋

- ・当事者・家族のニーズをくみ上げる
- ・障がい者が安心して住める地域づくりを行政、民間が一つになって進める
- ・障がい者が地域で生活するためにグループホームの充実が望まれる 等

	件数	その理由
①良くなった	6 件	<ul style="list-style-type: none"> ・グループホームを増やしていく。 ・グループホームが増えてきているので良いと思う。 ・災害 MAP の作成はとても良かったと思うし、市役所販売も始められ前進していると思う。 ・困難事例は行政に何度も相談をし、担当者会議に入ってもらえる様に依頼し参加してもらっている。 ・変わりつつあると思う。
②変わらない	5 件	<ul style="list-style-type: none"> ・当事者より住みにくい街との声が出ている。 ・ニーズが拾い切れていなかったり、行政から民間（事業所）にこんなサービスが充実して欲しいという呼び掛けは必要ではないか？ ・地域に対し、障がい福祉に関する周知や啓蒙に不足を感じる。 ・今後も継続していく必要のある課題である。
③悪くなった	1 件	<ul style="list-style-type: none"> ・行政がまず、自らの仕事を理解すべき。
④わからない	8 件	<ul style="list-style-type: none"> ・分からない。

5. 障がい福祉事業者

(6) 津島市の福祉施策に関する要望について、どう変化しましたか。

平成 26 年度アンケートでの意見（問題点・困りごと）の抜粋

- ・地域生活支援事業について、自治体間格差を解消してほしい
- ・多様なニーズに適応した福祉施設の整備等財政措置の充実をしてほしい
- ・児童についてのサービス提供ができないケースが多い 等

	件数	その理由
①良くなった	1 件	・児童について、サービス提供が出来る事業所が増えた。
②変わらない	7 件	<ul style="list-style-type: none"> ・圏域での対応が違う→日中一時の受け入れ今後どうなっていくのか？知りたい。 ・地域に対し、障がい福祉に関する周知や啓蒙に不足を感じる。 ・市の財政措置をとまなう施策は依然として厳しい。 ・地域生活支援事業はまだまだ他市より受け入れが悪い。
③悪くなった	3 件	<ul style="list-style-type: none"> ・まず、福祉課が自らの仕事を理解すべき。狭い仕事しかしていない。 ・財政の充実が出来ていない気がする。 ・施設側の対応に不満があり、現在利用している事業所を辞めて、他の事業所を利用したいが、定員の問題で断られたという話を聞いた事がある。
④わからない	9 件	・何が変わったのか分からない。

(7) その他、地域福祉の現場での問題点や困りごと、悩み、お気づきの点、課題解決のために取り組むべき施策・事業アイデアなどがありましたら、自由にご記入ください。

件数	自由意見
11 件	<ul style="list-style-type: none"> ・ 地域生活支援拠点を、計画通り 2020 年度までに完成させてほしい。事前にオープンして、実施して、見直して、はやく本番にしてほしい。 ・ 平成 26 年度のアンケートを受けて、どの内容にどの様にアプローチしたのか等の結果報告の様なものがなければ改善に繋がらないのではと思っている。 ・ 色々な事業所が集まって話をする場を増やして欲しい。 ・ 多様な事業所が増えてきているが調整機能がないので難ケースの対応に弱さがある。早急に基幹相談支援センターを設置し、整理調整が出来る事を願っている。 ・ 事業所として、緊急時（短期入所等が夜間、利用者様、ご家族）の受け入れが困難な際に受け入れが出来る様にしたい。最低限の受け入れが可能な備品やルール等が整備出来、やれるようならやっていきたい。結構ニーズがある。 ・ 『障がい福祉計画』に盛り込まれている「児童発達支援センター」の設置に向けて市の公共施設再配置・統合計画の中で早急に検討してもらいたい。 ・ とにかく、受給者証がおりのスピードを早くして欲しい。他市町村は 2、3 週間～1 か月。せっかく前向きになっている方々に早く利用を開始させてあげたいし、それまでは体験利用という形をとっているが、全力で支援してくれているスタッフにしっかり還元していけるようにしたい。 ・ 津島市内に新規の相談を受け入れてもらえる相談支援事業所が少ない。 ・ モニタリングの請求について、当月福祉サービスを利用していないとモニタリングとして請求する事が出来ない。モニタリング月以外でも計画相談として行動している為、請求月だけサービスを使っていない事で請求する事が出来ないのは事業所としては収益に影響が出てしまう。 ・ 65 歳になり、介護保険に移動すると今までのサービスが受けられない状況がよく見受けられたが、障がいの支援を残し、今まで通りの生活を確保出来る様、努力してくれているので有り難いと思う。介護保険ではあまり実施されない、買い物の同行等障→介支援Ⅰ、Ⅱに移行された利用者は生活支援の減少が見られ、生活の質が下がるのを苦しく受け止めていたが、ケアマネジャーの努力で移動支援等を確保してもらい感謝している。 ・ 津島市においてはサービスがニーズに追いついていないという事を耳にし、地域に根ざしたサービスをしたいという思いで取り組んでいる。